

旧上瀬谷通信施設地区と東名高速
道路を直結する新たなインター
エンジニアリング整備事業

環境影響評価方法書
説明会

令和7年10月

本日の説明内容

- 1.環境影響評価について
- 2.環境影響評価方法書の説明
- 3.縦覧及び意見書の提出について

1 環境影響評価について

環境影響評価とは

環境影響評価（環境アセスメント）制度

事業が環境に及ぼす影響について

- ・事前に調査、予測、評価
- ・その結果を公表
- ・市民等から意見を聴くなどの手続きを実施

適切な環境保全対策等を検討し、
事業計画に反映させる制度

それぞれの図書の内容について

配慮書

事業の計画を立案するにあたり、環境の保全について配慮すべき事項の検討を行い、その内容を記載したもの

方法書

環境への影響を調査・予測・評価する項目や、調査・予測の手法などを記載したもの

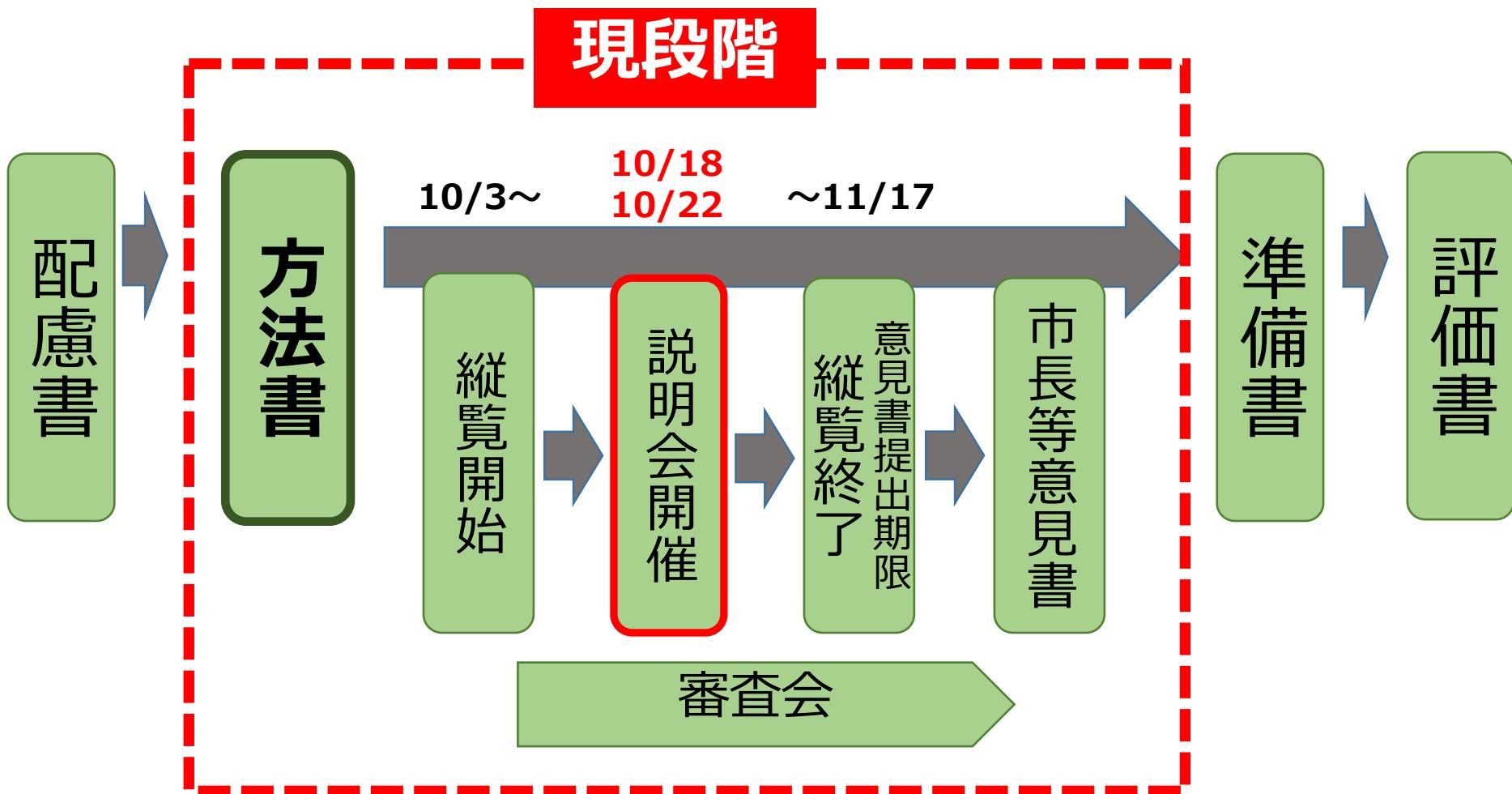
準備書

方法書等に基づき、環境への影響を調査・予測・評価した結果などを記載したもの

評価書

市長や住民等の意見を踏まえ、準備書の内容に検討を加え、環境影響評価の最終的な評価を記載したもの

環境影響評価の手続



2 環境影響評価方法書の説明

都市計画対象事業の概要

方法書p.2-1~2-3

都市計画決定権者の名称並びに当該第1分類事業を実施しようとする者の氏名及び住所

【都市計画決定権者】 横浜市

【第1分類事業を実施しようとする者】

名称 横浜市

代表者の氏名 横浜市長 山中 竹春

主たる事務所の所在地

横浜市中区本町 6 丁目50番地の10

都市計画対象事業の名称

旧上瀬谷通信施設地区と東名高速道路を直結する新たなインターチェンジ整備事業

都市計画対象事業の種類、規模

道路の建設（自動車専用道路の新設）

（第1分類事業）

延長：約0.85km （ランプ区間含め約3.7km）

構造形式：地表式、地下式

車線数：片側 1 ~ 2 車線

対象事業実施区域

横浜市瀬谷区上瀬谷町、五貫目町、瀬谷町

目黒町の各一部



注：方法書で示す土地区画整理事業実施区域内の地区区分は6頁で説明

対象事業実施区域

起点：横浜市瀬谷区瀬谷町
終点：横浜市瀬谷区瀬谷町

＜凡例＞

○---○ 対象事業実施区域

—●— 都県界

—■— 市界

—▲— 区界

■ 目的

上瀬谷地区内の「防災・公園地区」で整備を予定している広域防災拠点の機能を最大限に発揮するとともに、日常の交通利便性の向上、物流機能の強化など市内経済の活性化を目指す。

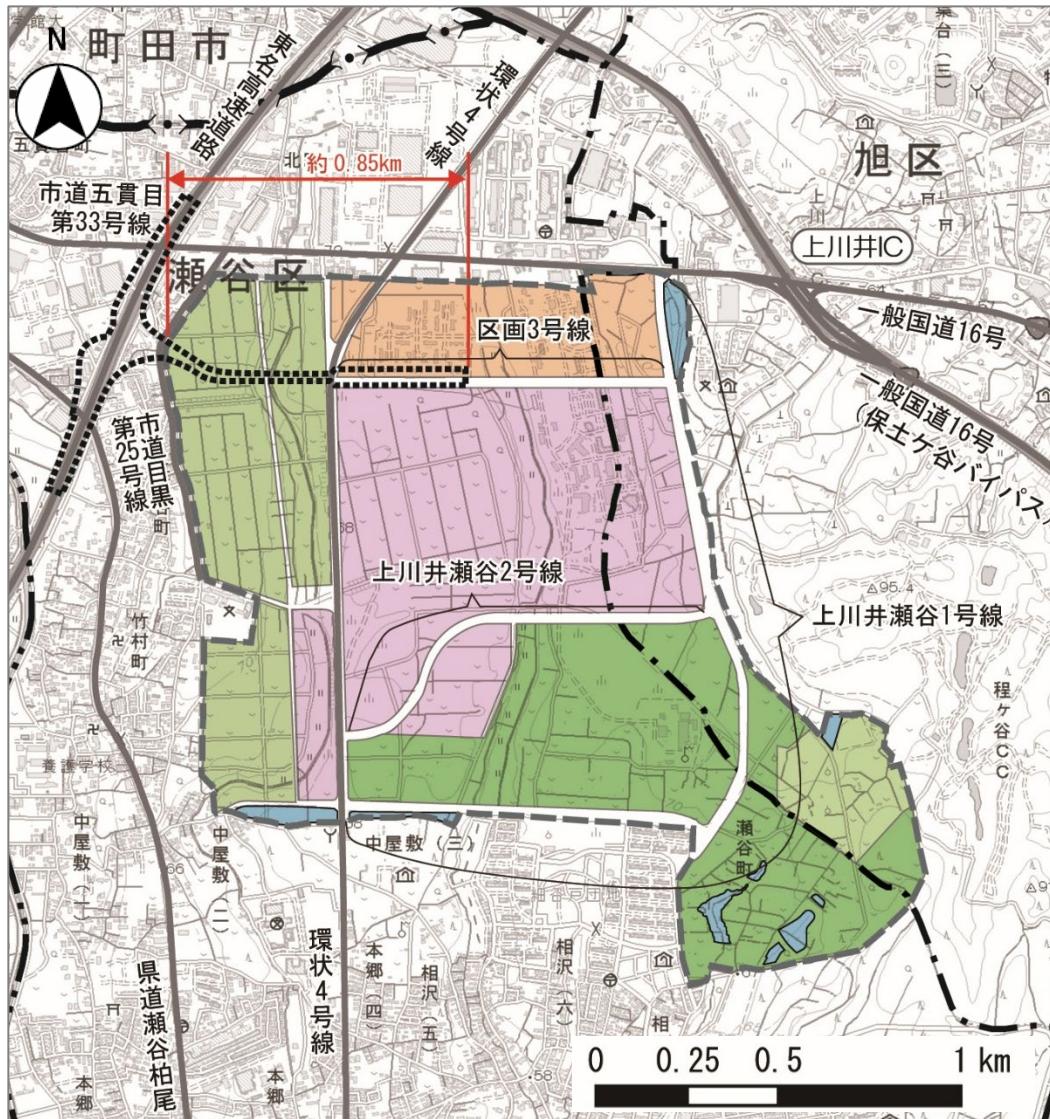
■ 必要性

- 救急・救命活動や緊急物資輸送の大動脈となる東名高速道路から直接アクセスできる新たなインターチェンジを整備し、本市全体の防災力の強化
- 高速道路へのアクセス時間が短縮し、広域アクセス性が向上
- 自動車交通が分散し、周辺交通環境の改善
- 新たな活性化拠点の形成を促進し、市内経済の活性化

都市計画対象事業の内容

土地利用構成

方法書p.2-3、2-5～2-6



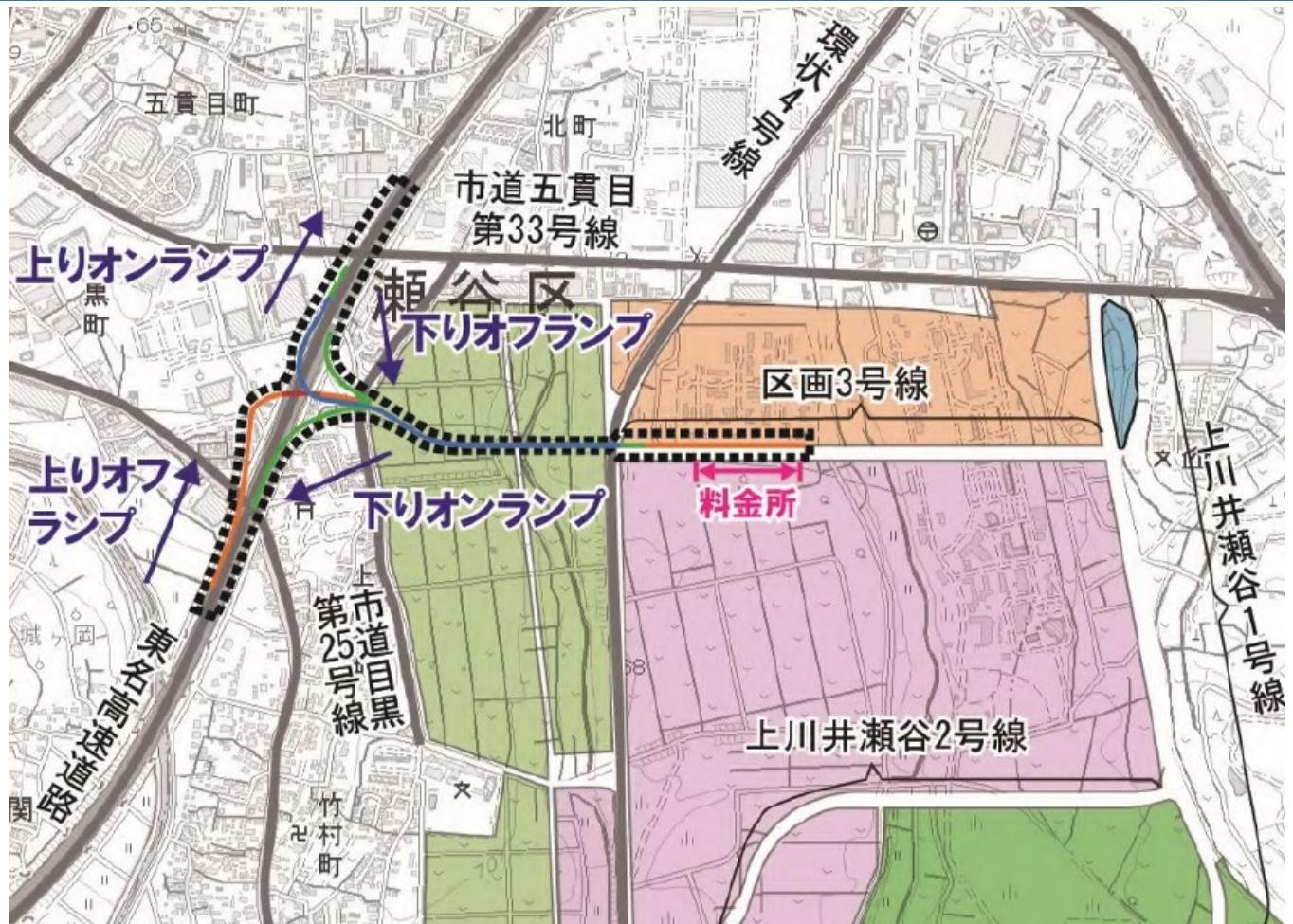
<凡例>

- 対象事業実施区域 (Dashed Line)
- 土地区画整理事業実施区域 (Double-Dashed Line)
- 都県界 (Line with dots)
- 市界 (Dashed Line)
- 区界 (Dashed Line)
- 農業振興地区 (農道等を含む) (Green)
- 観光・賑わい地区及び交通施設用地 (Purple)
- 物流地区 (Orange)
- 防災・公園地区 (Dark Green)
- 道路 (White)
- 調整池 (地上式) (Blue)

都市計画対象事業の内容

構造形式

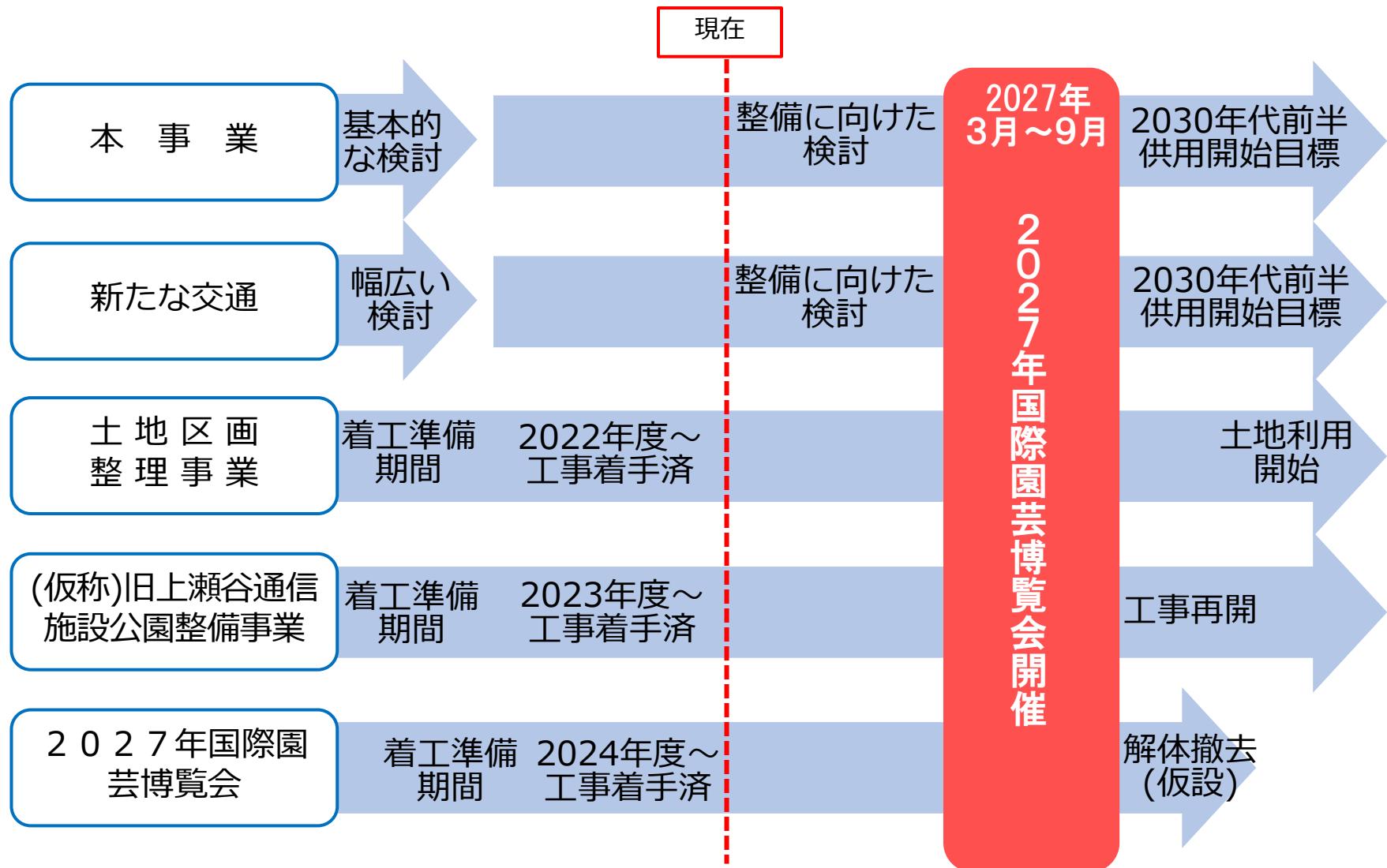
方法書p.2-6



■ 高架構造 ■ 掘割構造 ■ トンネル構造 ■ 平面構造 ■ 交差又は接続する道路

今後のスケジュール

方法書p.2-8



注1：関連事業の今後のスケジュールは、各事業の環境影響評価関連図書をもとに整理したものです。

注2：「新たな交通」の事業は、横浜市環境影響評価条例の対象外の事業です。

環境影響要因の抽出及び 環境影響評価項目の選定

環境影響要因の抽出

方法書p.5-1

区分	環境影響要因	抽出の理由
工事中	建設機械の稼働	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の建設に伴い、建設機械が対象事業実施区域で稼働します。
	工事用車両の走行	<ul style="list-style-type: none"> ・資機材の運搬や廃棄物等の搬出を行う車両が、周辺道路を運行します。
	切土工等、トンネル工事又は既存の工作物の除去	<ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施に伴い、地表を改変します。 ・トンネル工事に伴い、地下を改変します。 ・工事の実施に伴い、既存の工作物を解体・撤去します。
存在・供用時	道路（平面構造又は掘割構造）の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・道路（平面構造又は掘割構造）が、地上部に出現します。
	道路（高架構造）の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・道路（高架構造）が、地上部に出現します。
	道路（トンネル構造）の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・道路（トンネル構造）が、地下部に出現します。
	自動車の走行	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の供用に伴い、新たに自動車が地上もしくは地下を走行します。

注：評価を行う現況は、土地区画整理事業の着手後、工事中の時点とし、本事業に関する方法市長意見書を受理した時点の状況とします。

環境影響要因と環境影響評価項目の関連表

方法書p.5-2

工事中（1）

環境影響評価項目		環境影響要因		
	細目	建設機械の稼働	工事用車両の走行	切土工等、トンネル工事又は既存の工作物の除去
温室効果ガス		○	○	
生物・生態系	生態系／動物／植物			○
緑地				○
水循環	地下水位			○
廃棄物・建設発生土	産業廃棄物／建設発生土			○
大気質	大気汚染	○	○	
騒音		○	○	
振動		○	○	
地盤	地盤沈下			○

※工事中を対象として選定した項目のみを掲載

環境影響要因と環境影響評価項目の関連表

方法書p.5-2

工事中（2）

環境影響評価項目		環境影響要因		
	細目	建設機械の稼働	工事用車両の走行	切土工等、トンネル工事又は既存の工作物の除去
安全	地下埋設物 <small>注</small>			<input type="radio"/>
地域交通	交通混雑／歩行者等の安全		<input type="radio"/>	
触れ合い活動の場	触れ合い活動の場		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
文化財等				<input type="radio"/>

注：本事業の事業特性を考慮し、追加した細目

※工事中を対象として選定した項目のみを掲載

環境影響要因と環境影響評価項目の関連表

方法書p.5-2

存在・供用時（1）

環境影響評価項目		環境影響要因		
細目		道路の存在		自動車の走行
		平面又は掘割構造	高架構造	
温室効果ガス		○	○	○
生物・生態系	生態系／動物／植物	○	○	
緑地		○	○	
水循環	地下水位	○		○
大気質	大気汚染			○
騒音				○
振動				○
地盤	地盤沈下	○		○

※存在・供用時を対象として選定した項目のみを掲載

環境影響要因と環境影響評価項目の関連表

方法書p.5-2

存在・供用時（2）

環境影響評価項目		環境影響要因			
細目		道路の存在			自動車の走行
		平面又は掘割構造	高架構造	トンネル構造	
低周波音					○
日影	日照阻害		○		
地域交通	交通混雑／歩行者等の安全				○
景観		○	○		
触れ合い活動の場	触れ合い活動の場	○			○

※存在・供用時を対象として選定した項目のみを掲載

■ 工事中及び供用時ともに選定しなかった環境影響評価項目

環境影響評価項目	
	細目
水質・底質	公共用水域の水質
	地下水の水質
	公共用水域の底質
土壤	土壤汚染
悪臭	悪臭
電波障害	テレビ電波障害
風環境	局地的な風向・風速

調査、予測及び評価の手法

■ 調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
温室効果ガスに係る原単位の把握	資料	「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」等により、予測式及び原単位を整理
地域内のエネルギー資源の状況	資料	既存の統計資料や、横浜市のエネルギー関連施策等の収集整理により調査
排出削減対策	資料	同種又は類似の事業を対象に、温室効果ガスの排出等を削減するための対策の内容及びその効果等を整理

注：主な調査項目を記載

予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>工事の実施に伴うエネルギーの使用量及び温室効果ガスの排出量、それらの削減の程度</u>	【地域・地点】 対象事業実施区域 【時期】 工事期間全体	施工計画の内容を勘案し、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」等に基づき、 <u>エネルギーの使用量、温室効果ガスの排出量、それらの削減の程度を定量的に算定</u>

予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>道路の存在に伴うエネルギーの使用量及び温室効果ガスの排出量、それらの削減の程度</u>	【地域・地点】 対象事業実施区域 【時期】 供用を開始し、事業活動が定常の状態になる時期	事業計画の内容を勘案し、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」等に基づき、 <u>エネルギーの使用量、温室効果ガスの排出量、それらの削減の程度を定量的に算定</u>

■ 調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
<u>生態系の状況</u> ・生態系の機能及び構造 ・食物連鎖の状況 ・注目すべき生態系及びその理由	資料 現地	動物の状況及び植物の状況の <u>調査結果</u> 及び <u>現地踏査</u> により、 <u>生態系の状況を把握</u>

注：主な調査項目を記載

■ 予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>工事の実施に伴う生態系の状況の変化の内容及びその程度</u>	<u>【地域・地点】</u> 現地調査の範囲 <u>【時期】</u> 工事期間全体	調査で把握した生態系の状況と施工計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

■ 予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>道路の存在に伴う生態系の状況の変化の内容及びその程度</u>	<u>【地域・地点】</u> 現地調査の範囲 <u>【時期】</u> 道路の完成後、一定期間をおいた動物及び植物の生育・生息環境が安定した時点	調査で把握した生態系の状況と事業計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

調査手法

調査項目 <small>注</small>	調査方法	
<u>動物の状況</u> • 動物相 • 注目すべき動物種及び動物群集の状況 • 生息環境の特性 • 動物の生息環境からみた地域環境特性	資料 現地	<u>既存資料による情報の収集・整理及び現地踏査</u>
	現地	陸生動物 動物相調査 a. <u>哺乳類</u> <ul style="list-style-type: none"> 任意観察法、フィールドサイン法、トラップ法、無人撮影法及び夜間調査（コウモリ類） 4季（春季、夏季、秋季、冬季） ※夜間は2季（春季、夏季） b. <u>鳥類</u> <ul style="list-style-type: none"> 任意観察法、ラインセンサス法、定点観察法及び夜間調査（フクロウ類、夜行性鳥類） 5季（春季、初夏季、夏季、秋季、冬季） ※夜間調査は繁殖期（初夏季、冬季） ※定点観測法（猛禽類の繁殖の兆候が確認された場合）は2営巣期 c. <u>両生類及び爬虫類</u> <ul style="list-style-type: none"> 任意観察法及び任意採取法 4季（早春季、春季、夏季、秋季）

注：主な調査項目を記載

調査手法

調査項目	調査方法	
<u>動物の状況</u> <ul style="list-style-type: none"> ・動物相 ・注目すべき動物種及び動物群集の状況 ・生息環境の特性 ・動物の生息環境からみた地域環境特性 	<p>現地</p>	<p>d.<u>昆虫類</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・任意観察法、任意採取法、ライトトラップ法及びベイトトラップ法 ・3季（春季、夏季、秋季） <p>e.<u>陸産貝類</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・任意観察法及び任意採取法 ・2季（初夏季、冬季） <p>水生生物</p> <p>a.<u>魚類</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・任意観察法及び任意採取法 ・4季（春季、夏季、秋季、冬季） <p>b.<u>底生動物</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・任意観察法及び任意採取法 ・4季（春季、夏季、秋季、冬季）

注：主な調査項目を記載

調査手法

調査項目 <small>注</small>	調査方法	
水質の状況	現地	大門川のSS（浮遊性物質）、pH（水素イオン濃度）を調査 ・平常時：2回（渴水期、豊水期）
水循環の状況	資料	河川の形態、河川の流量は、既存資料の収集・整理及び現地踏査により調査
	現地	地下水位について、観測井を設置し調査 ・1年間 河川の流量の調査 ・平常時：2回（渴水期、豊水期）

注：主な調査項目を記載

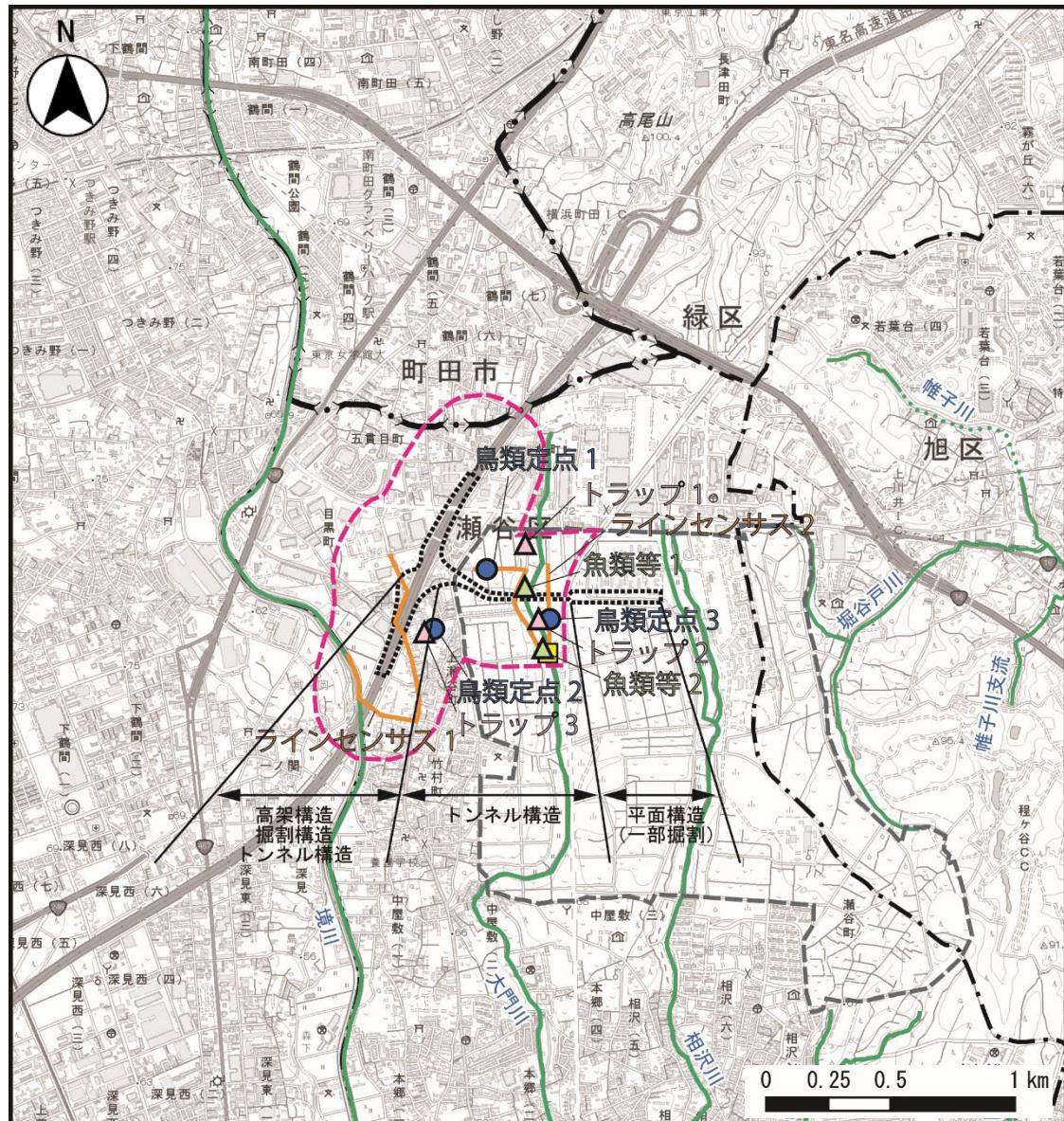
生物・生態系（動物）

方法書p.6-11

調査地域

凡例

- 対象事業実施区域
- 都県界
- - - 市界
- · - 土地区画整理事業実施区域
- 調査地域（動物・植物）
(対象事業実施区域から
約250mまでの範囲)
- 河川
- 調査地点（河川の流量・水質）
- △— ラインセンサス（鳥類）
- 調査地点（鳥類（定点観察））
- ▲ 調査地点
(トラップ（哺乳類、昆虫類）)
- ▲ 調査地点
(魚類、定点動物、付着藻類)



■ 予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>工事の実施に伴う陸生動物の動物相、水生生物相の変化の内容及びその程度</u>	【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 工事期間全体	調査で把握した陸生動物の動物相、水生生物相の状況及び生息環境と施工計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

■ 予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>道路の存在に伴う陸生動物の動物相、水生生物相の変化の内容及びその程度</u>	【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 道路の完成後、一定期間をおいた動物の生息環境が安定した時点	調査で把握した陸生動物の動物相、水生生物相の状況及び生息環境と事業計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

■ 調査手法

調査項目 <small>注</small>	調査方法	
<u>植物の状況</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 植物相 ・ 植生 ・ 注目すべき植物種、その分布及び理由 ・ 大径木の状況 	資料 現地	既存資料による情報の収集・整理及び <u>現地踏査</u>
	現地	<u>陸生植物</u> <ul style="list-style-type: none"> a. 植物相調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 任意観察法及び任意採集法（維管束植物、蘚苔類） ・ 4季（早春季、春季、夏季、秋季） b. 植生調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ コドラート法 ・ 1季（夏季） c. 大径木調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現地確認 ・ 通年 <u>水生植物</u> <ul style="list-style-type: none"> a. 付着藻類調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 任意観察法及び定量採取法 ・ 4季（春季、夏季、秋季、冬季）

調査手法

調査項目注	調査方法	
水質の状況	現地	大門川のSS（浮遊性物質）、pH（水素イオン濃度）を調査 ・平常時：2回（渴水期、豊水期）
水循環の状況	資料	河川の形態、河川の流量は、既存資料の収集・整理及び現地踏査により調査
	現地	地下水位について、観測井を設置し調査 ・1年間 河川の流量の調査 ・平常時：2回（渴水期、豊水期）

注：主な調査項目を記載

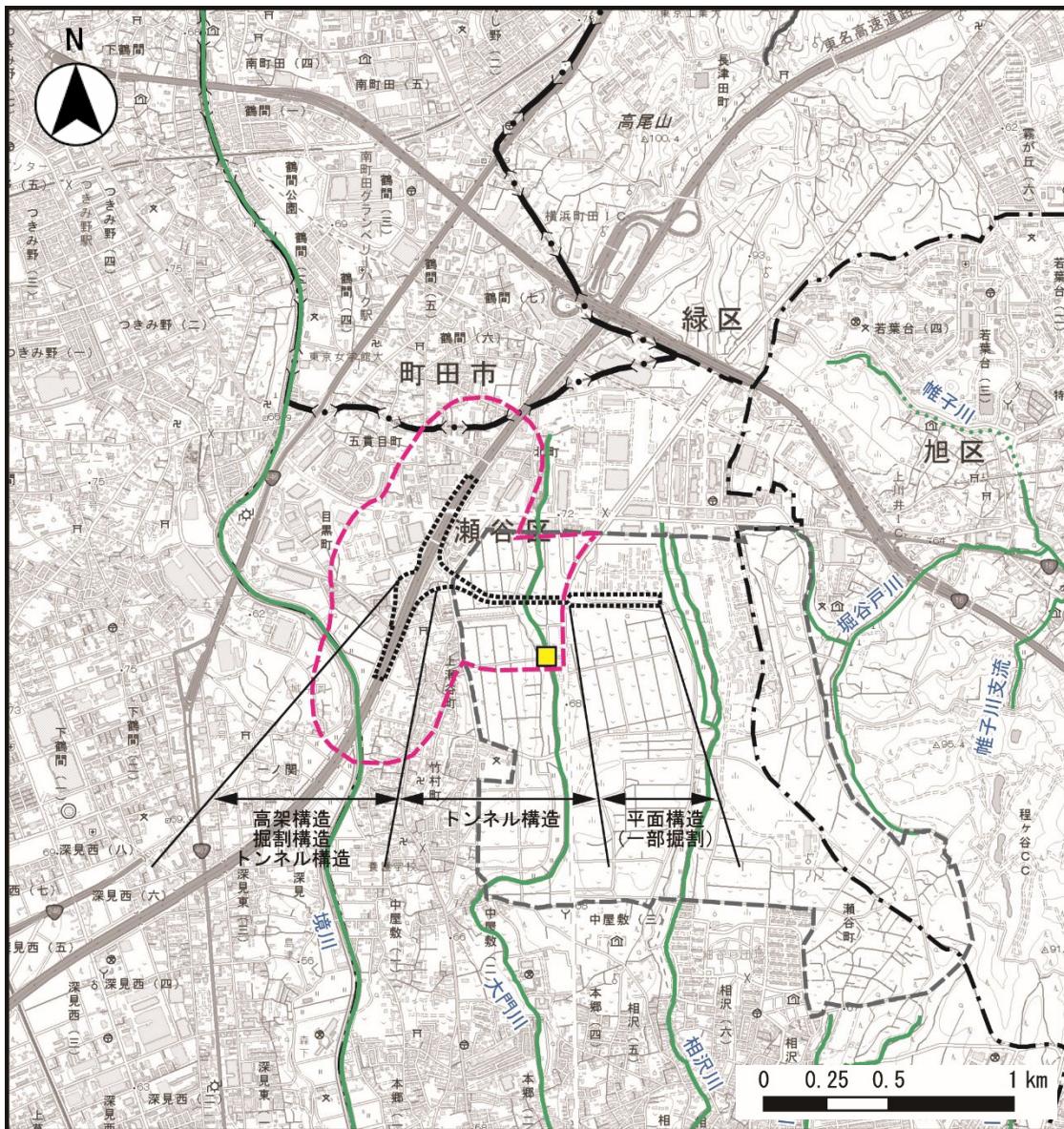
生物・生態系（植物）

方法書p.6-9～6-11

調査地域

凡例

- 対象事業実施区域
- 都県界
- - - 市界
- · - 地区画整理事業実施区域
- (-----) 調査地域（動物・植物）
(対象事業実施区域から
約250mまでの範囲)
- 河川
- 調査地点（河川の流量・水質）



■ 予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>工事の実施に伴う陸生植物の植物相、水生植物の植物相の変化の内容及びその程度</u>	<p>【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 工事期間全体</p>	調査で把握した陸生植物の植物相、水生植物の植物相及び植生の状況と施工計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

■ 予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>道路の存在に伴う陸生植物の植物相、水生植物の植物相の変化の内容及びその程度</u>	<p>【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 道路の完成後、一定期間をおいた植物の生育環境が安定した時点</p>	調査で把握した陸生植物の植物相、水生植物の植物相及び植生の状況と事業計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

調査手法

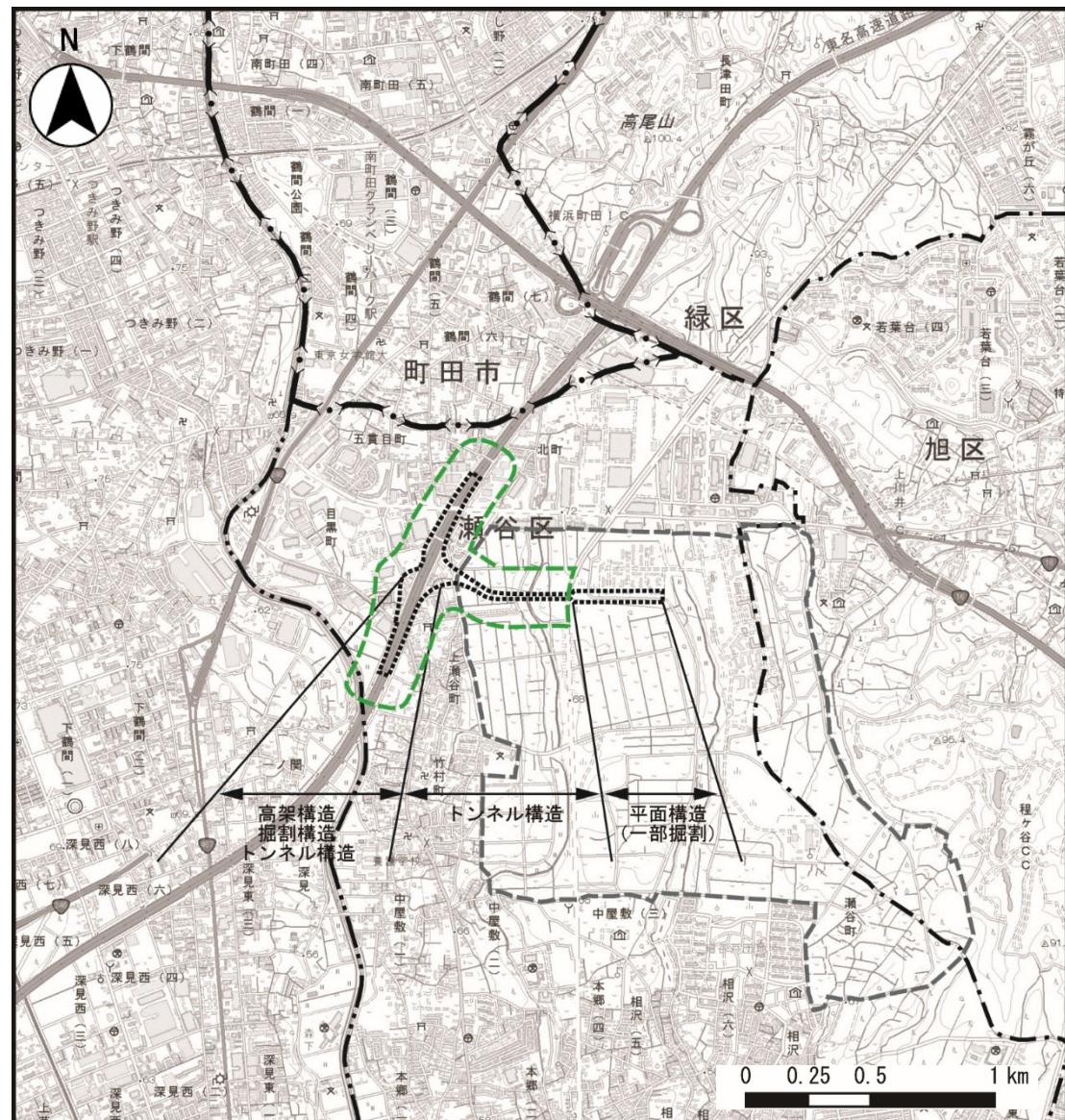
調査項目 ^注	調査方法	
緑地の状況 ・緑地の位置付け及び立地 ・緑地の面積及び形状等 ・特に重要な緑地の特性 及び状況 ・緑地の機能の状況	資料 現地	植生図等の既存資料による情報の収集・整 理及び現地踏査により調査

注：主な調査項目を記載

調査地域

凡例

- 対象事業実施区域
 - 都県界
 - 市界
 - 区界
 - 土地区画整理事業実施区域
 - 調査地域（緑地）
(対象事業実施区域から
約100mまでの範囲)



■ 予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>工事の実施に伴う緑地の変化及びその機能の程度</u>	<p>【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 工事期間全体</p>	調査で把握した緑地の状況と施工計画を重ね合わせ、 <u>影響の程度を定量的に予測</u>

■ 予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>道路の存在に伴う緑地の変化及びその機能の程度</u>	<p>【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 道路の完成後、一定期間をおいた時点</p>	調査で把握した緑地の状況と事業計画を重ね合わせ、 <u>影響の程度を定量的に予測</u>

■ 調査手法

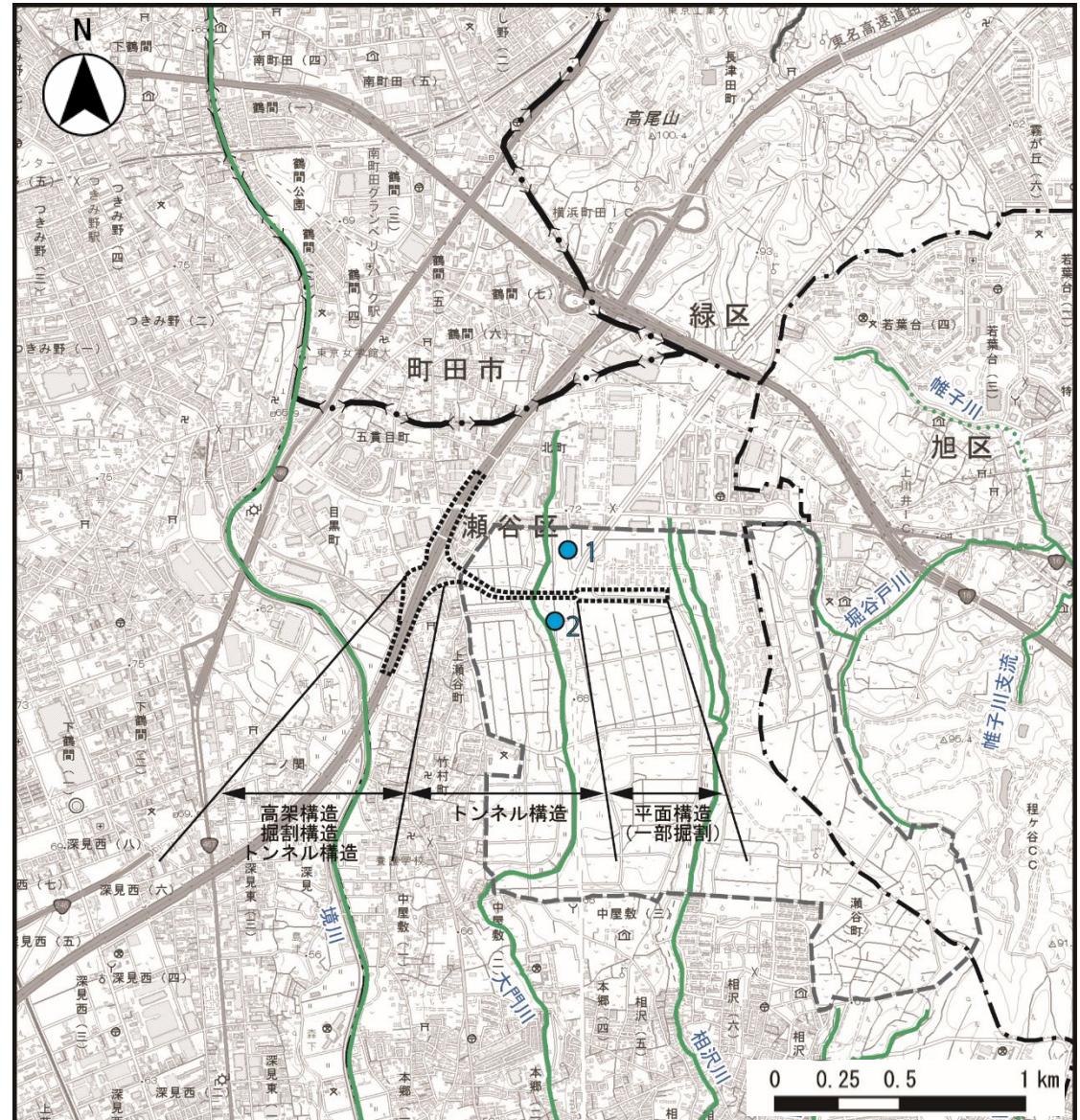
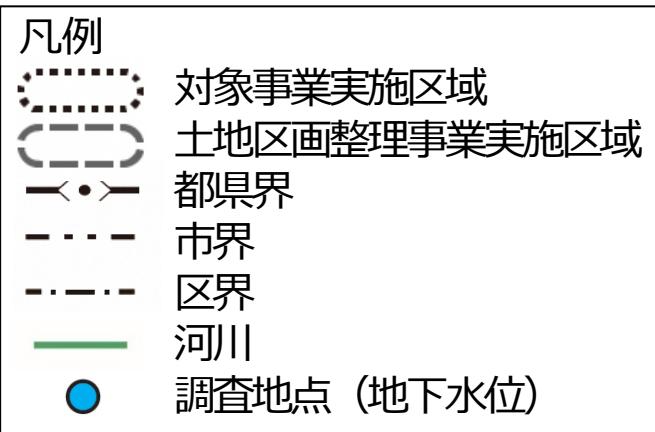
調査項目 <small>注</small>	調査方法	
<u>地下水の状況</u> ・地下水の水位及び流動 ・帶水層の状況	資料	既存資料の収集・整理
	現地	地下水位について、観測井を設置し調査 ・1年間

注：主な調査項目を記載

水循環 (地下水位)

方法書p.6-14~6-16

調査地点



■ 予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴い変化する <u>地下水位</u>	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその周辺</p> <p>【時期】 工事による影響が最大となる時期</p>	<p><u>施工計画</u>の内容を勘案し、<u>数値解析モデル</u>（断面二次元浸透流解析等）を用いて、<u>地下水位の変化</u>を定量的に予測</p>

■ 予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在に伴い変化する <u>地下水位</u>	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその周辺</p> <p>【時期】 地下構造物の完成後、供用を開始し、事業活動が定常の状態になる時期</p>	<p><u>事業計画</u>の内容を勘案し、<u>数値解析モデル</u>（断面二次元浸透流解析等）を用いて、<u>地下水位の変化</u>を定量的に予測</p>

調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
廃棄物及び建設発生土の <u>処理・処分の状況</u> ・種類ごとの発生量 ・工事間利用の状況 ・廃棄物の処理状況	資料	横浜市における廃棄物及び建設発生土の処理状況等を、 <u>既存資料の収集・整理</u> により把握

注：主な調査項目を記載

予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施により 発生する <u>産業廃棄物</u>	【地域・地点】 対象事業実施区域 【時期】 工事期間全体	<u>施工計画を基に発生量を推定する</u> と共に、本事業で実行可能な再利 用等の方法や、処理方法等を整理 し、種類ごとに <u>発生量、資源化量</u> 及び最終処分量を定量的に予測
工事の実施により 発生する <u>建設発生土</u>		

調査手法

調査項目 <small>注</small>	調査方法	
大気質の状況 ・二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質	資料	対象事業実施区域近傍の <u>常時監視測定局</u> のデータを収集・整理
	現地	「二酸化窒素に係る環境基準について」等に定める方法により <u>測定</u> ・7日間×24時間×4季
気象の状況 ・風向、風速 ・日射量 ・放射収支量	資料	対象事業実施区域近傍の <u>常時監視測定局</u> のデータを収集・整理
	現地	風向・風速の状況を「地上気象観測指針」に定める方法により <u>測定</u> 気温、湿度の状況を <u>温度計及び湿度計を設置して調査</u> ・7日間×24時間×4季
大気汚染物質の主要な発生源の状況 ・主要発生源の状況 ・自動車交通量等の状況	資料	既存資料の収集・整理及び現地踏査
	現地	自動車断面交通量を測定 ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回

注：主な調査項目を記載

調査地点 (工事中)

凡例



対象事業実施区域



土地区画整理事業実施区域



都県界



市界



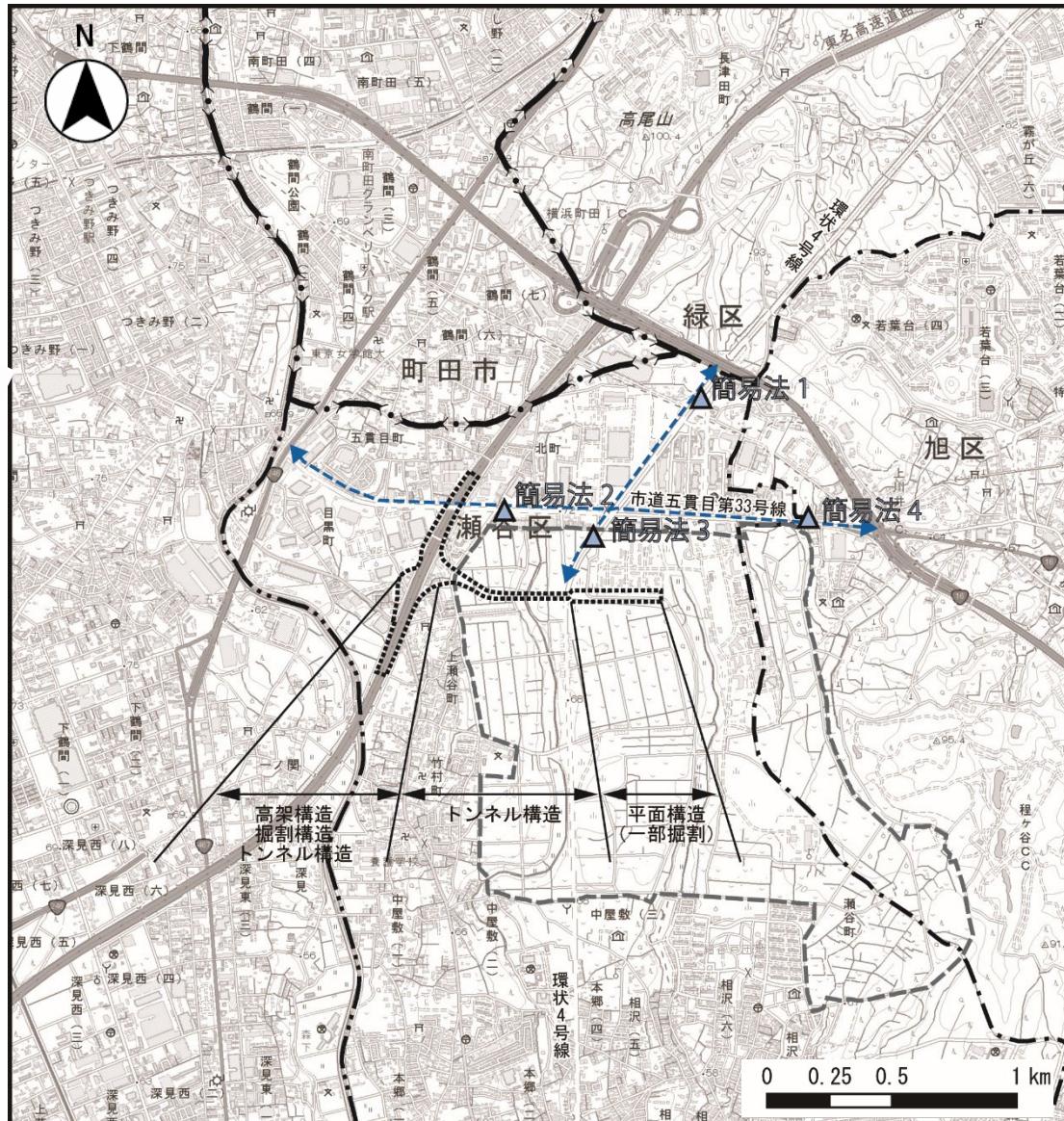
区界



工事用車両の走行ルート



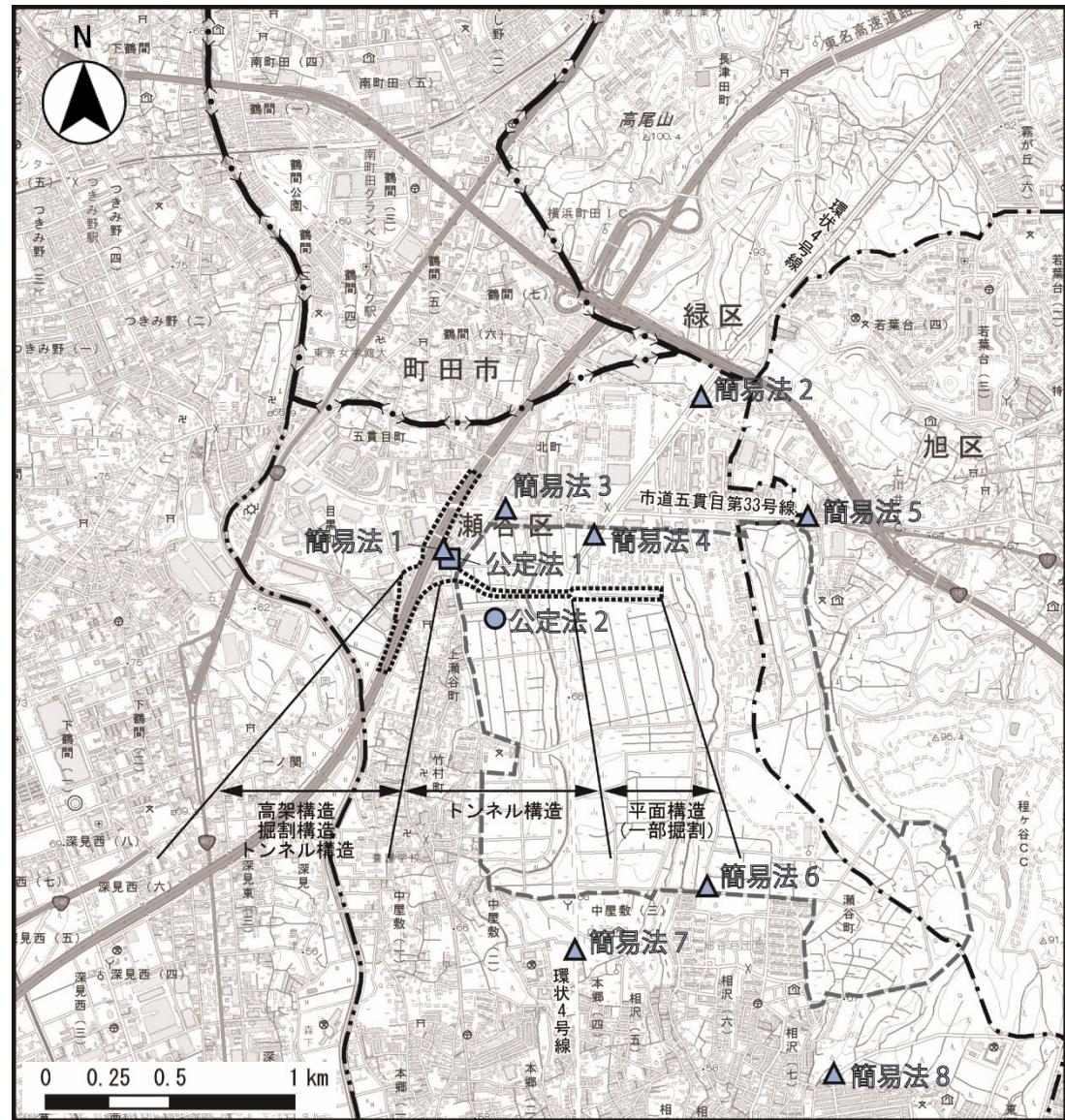
調査地点（簡易法（沿道大気、
自動車断面交通量））



調査地点 (存在・供用時)

凡例

- 対象事業実施区域
- 土地区画整理事業実施区域
- 都県界
- 市界
- 区界
- 調査地点 (公定法 (一般大気)
・地上気象)
- 調査地点 (公定法 (沿道大気)
・地上気象)
- 調査地点 (簡易法 (沿道大気、
自動車断面交通量))



■ 予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>建設機械の稼働に伴う大気質濃度</u>	<p>【地域・地点】 最大着地濃度の出現する地点を含む範囲</p> <p>【時期】 建設機械の稼働による影響が最大となる時期</p>	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている <u>大気拡散式</u> により、 <u>年平均値を定量的に予測</u>
<u>工事用車両の走行に伴う大気質濃度</u>	<p>【地域・地点】 工事用車両の走行ルート沿道として想定される道路沿道4地点（簡易法1～4地点）</p> <p>【時期】 工事用車両の走行による影響が最大となる時期</p>	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている <u>大気拡散式</u> により、 <u>年平均値を定量的に予測</u>

■ 予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>自動車の走行に伴う大気質濃度</u>	<p>【地域・地点】 供用道路の走行ルート沿道として想定される道路沿道の9地点（簡易法2～8地点、ランプ部周辺1地点、区画3号線接続部（トンネル構造坑口部）周辺1地点）</p> <p>【時期】 供用開始し、事業活動が定常の状態になる時期</p>	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている <u>大気拡散式</u> により、 <u>年平均値を定量的に予測</u>

調査手法

調査項目 <small>注</small>	調査方法	
騒音の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・一般環境騒音 ・道路交通騒音 	現地	<p>「騒音に係る環境基準について」に定める方法に準拠し、<u>測定</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回
騒音の主要な発生源の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・主要発生源の状況 ・自動車交通量等の状況 	資料 現地	<u>既存資料の収集・整理及び現地踏査</u>
		<p>自動車断面交通量を<u>測定</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回

注：主な調査項目を記載

調査地点 (工事中)

凡例



対象事業実施区域



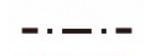
土地区画整理事業実施区域



都県界



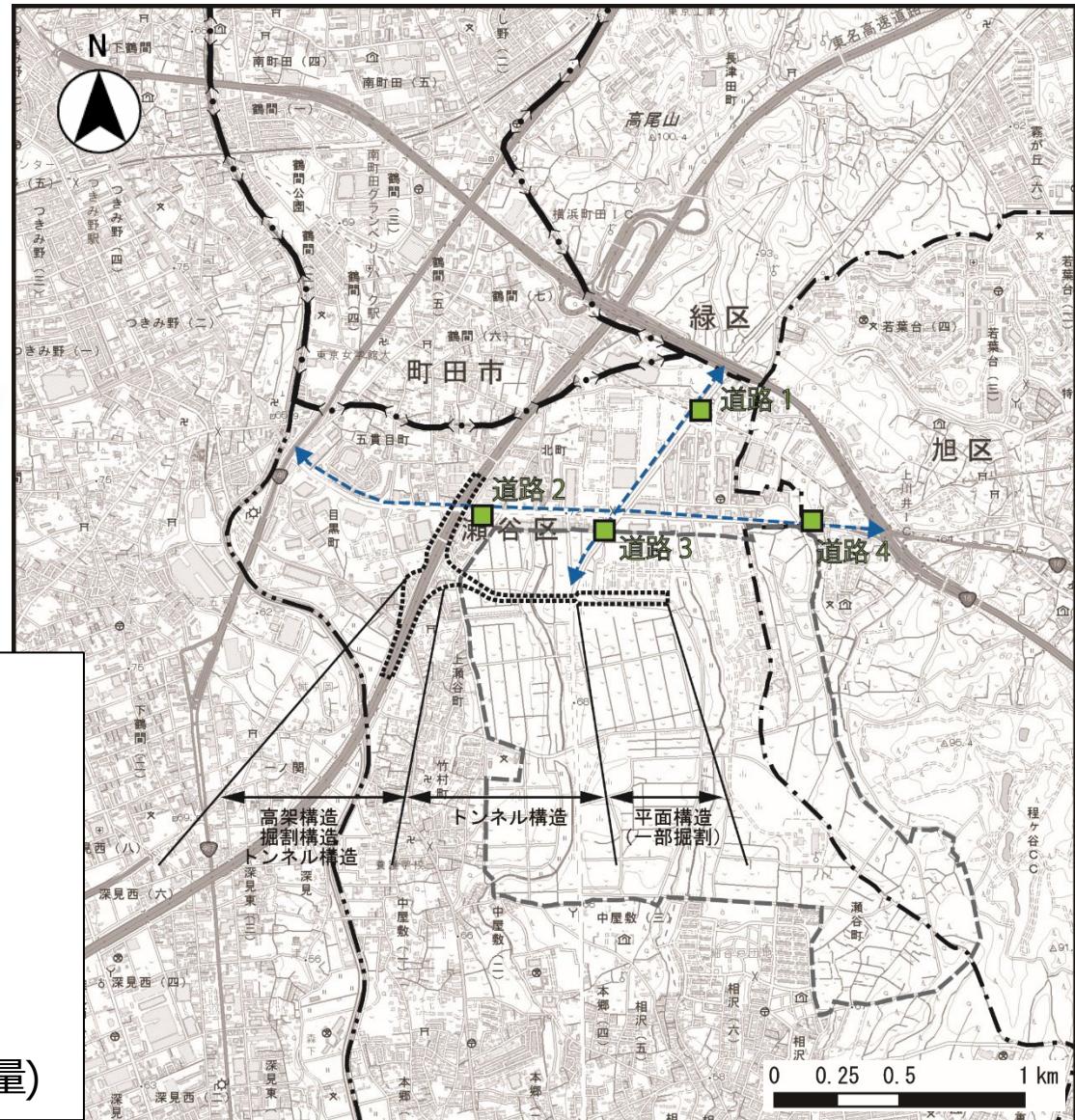
市界



区界



工事用車両の走行ルート

調査地点
(道路交通騒音、自動車断面交通量)

調査地点 (存在・供用時)

凡例



対象事業実施区域



土地区画整理事業実施区域



都県界



市界



区界



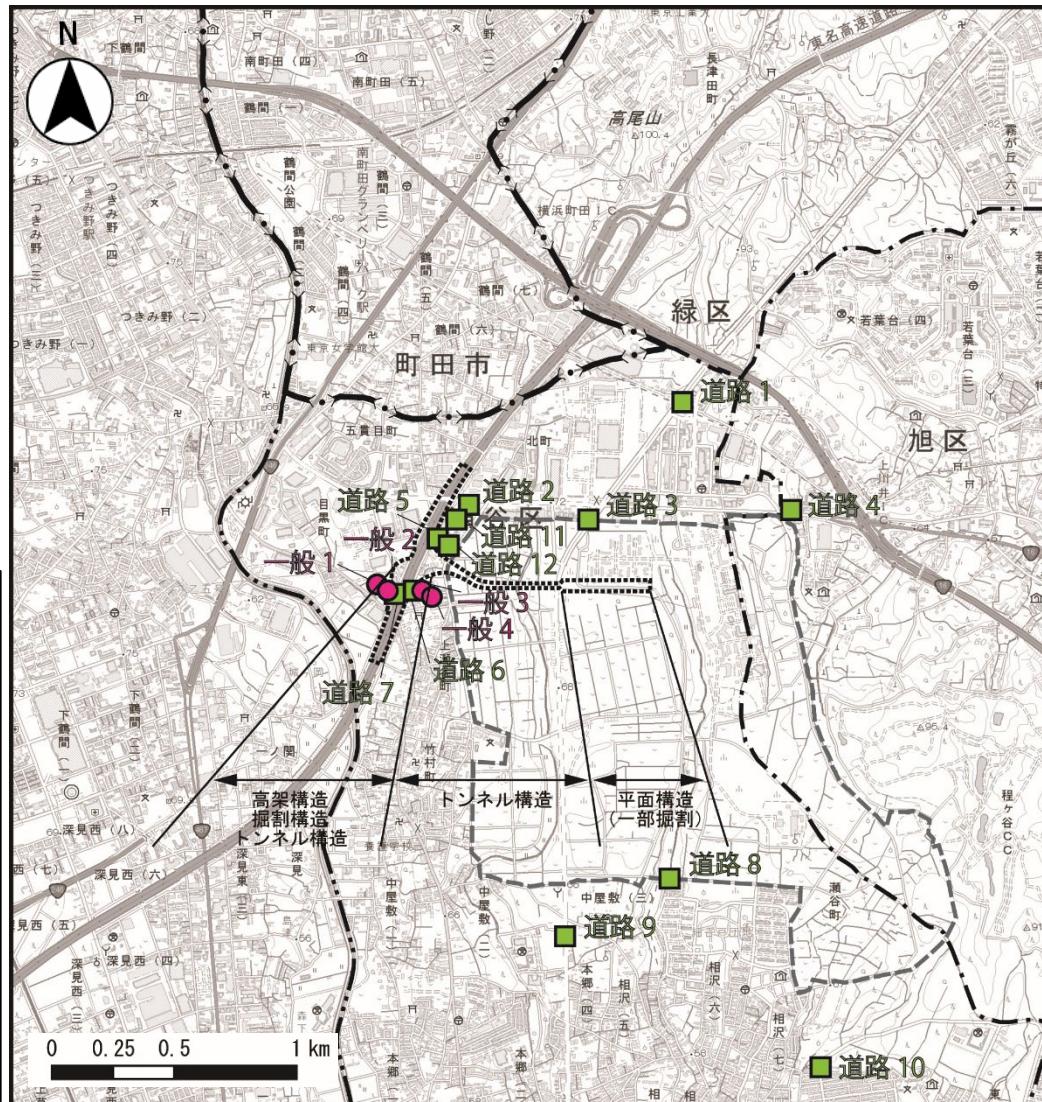
調査地点

(一般環境騒音)



調査地点

(道路交通騒音、自動車断面交通量)



■ 予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>建設機械の稼働に伴う騒音</u>	<p>【地域・地点】 ランプ部周辺の対象事業実施区域から約100mの範囲 予測高さは地上1.2m</p> <p>【時期】 建設機械の稼働による影響が最大となる時期、時間帯</p>	<u>予測計算モデル(ASJ CN-Model)</u> を用い、定量的に予測
<u>工事用車両の走行に伴う道路交通騒音</u>	<p>【地域・地点】 工事用車両の走行ルート沿道として想定される道路沿道4地点 予測高さは地上1.2m (道路1～4地点)</p> <p>【時期】 工事用車両の走行による影響が最大となる時期、時間帯</p>	<u>「道路交通騒音の予測計算モデル(ASJ RTN-Model)」</u> を用い、定量的に予測

■ 予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>自動車の走行に伴う道路交通騒音</u>	<p>【地域・地点】 自動車の走行ルート沿道として 想定される道路沿道の 12 地点 予測高さは地上 1.2m ランプ部周辺のマンションの主要高さ (道路 1 ~ 12 地点)</p> <p>【時期】 供用開始し、事業活動が定常の状態に なる時期、時間帯</p>	「 <u>道路交通騒音の予測計算モデル(ASJ RTN-Model)</u> 」を用い、予測

調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
振動の状況 ・ <u>一般環境振動</u> ・ <u>道路交通振動</u>	現地	「振動レベル測定方法」(JIS Z 8735)に定める方法に準拠し、 <u>測定</u> ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回
地盤の状況 ・ <u>地盤卓越振動数</u>	現地	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に基づき、 <u>測定</u> ・大型車の単独走行10台
振動の主要な発生源の状況 ・ <u>主要発生源の状況</u> ・ <u>自動車交通量等の状況</u>	資料 現地	既存資料の収集・整理及び <u>現地踏査</u>
	現地	自動車断面交通量を <u>測定</u> ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回

注：主な調査項目を記載

調査地点 (工事中)

凡例



対象事業実施区域



土地区画整理事業実施区域



都県界



市界



区界

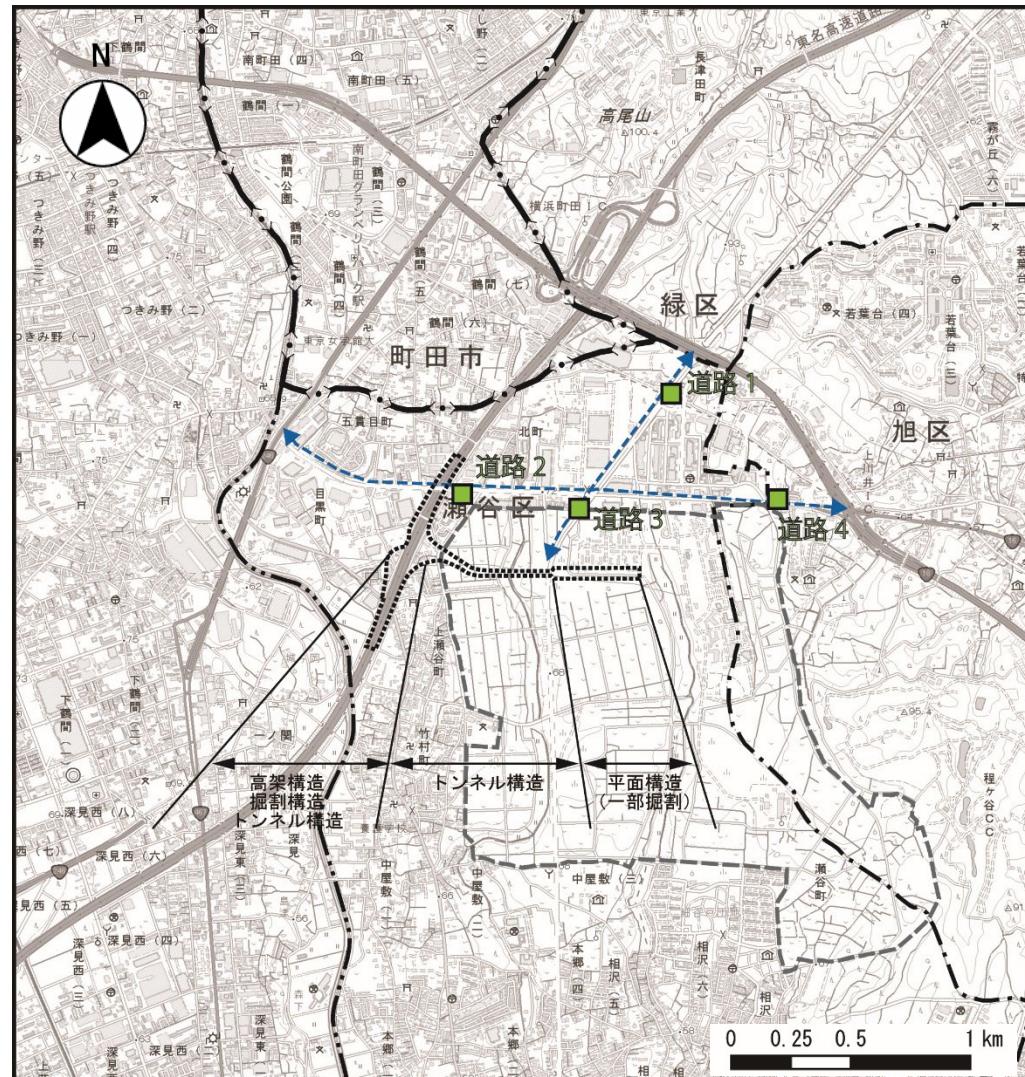


工事用車両の走行ルート



調査地点

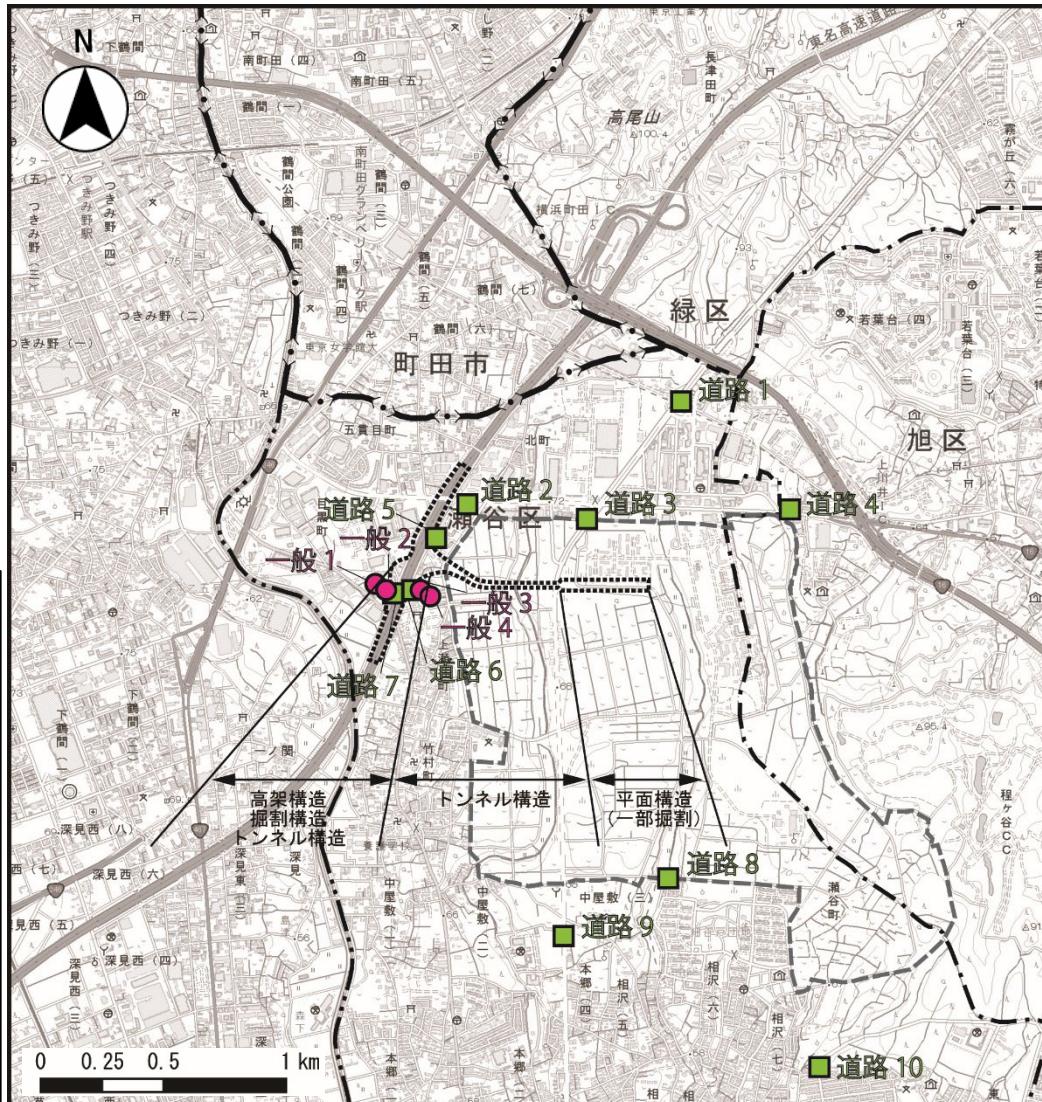
(道路交通振動、自動車断面交通量)



調査地点 (存在・供用時)

凡例

- 対象事業実施区域
- 土地区画整理事業実施区域
- 都県界
- 市界
- 区界
- 調査地点
(一般環境騒音)
- 調査地点
(道路交通騒音、自動車断面交通量)



予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>建設機械の稼働に伴う振動</u>	<p>【地域・地点】 ランプ部周辺の対象事業実施区域から約100mの範囲</p> <p>【時期】 建設機械の稼働による影響が最大となる時期、時間帯</p>	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている <u>振動の伝搬理論</u> に基づく予測式を用い、定量的に予測
<u>工事用車両の走行に伴う道路交通振動</u>	<p>【地域・地点】 工事用車両の走行ルート沿道として想定される道路沿道4地点 (道路1～4地点)</p> <p>【時期】 工事用車両の走行による影響が最大となる時期、時間帯</p>	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている <u>予測式を用い、定量的に予測</u>

■ 予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>自動車の走行に伴う道路交通振動</u>	<p>【地域・地点】 自動車の走行ルート沿道として 想定される道路沿道の 10 地点 (道路 1 ~ 10 地点)</p> <p>【時期】 供用開始し、事業活動が定常の状態に なる時期、時間帯</p>	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている <u>予測式</u> を用い、定量的に予測

調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
地質の状況	資料	ボーリング資料を含めた既存資料の収集・整理により把握
	現地	ボーリングによる地質調査を実施 (既往調査結果を利用)

注：主な調査項目を記載

予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う地盤の変化	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域周辺 【時期】 工事による影響が最大となる時期</p>	施工計画の内容を勘案し、地盤の状況及び地下水の状況について定量的な予想結果（数値解析モデル（断面二次元浸透流解析等））と重ね合わせ、影響の程度を予測

予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在に伴う地盤の変化	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域周辺 【時期】 地下構造物の完成後</p>	事業計画の内容を勘案し、地盤の状況及び地下水の状況について定量的な予想結果（数値解析モデル（断面二次元浸透流解析等））と重ね合わせ、影響の程度を予測

調査手法

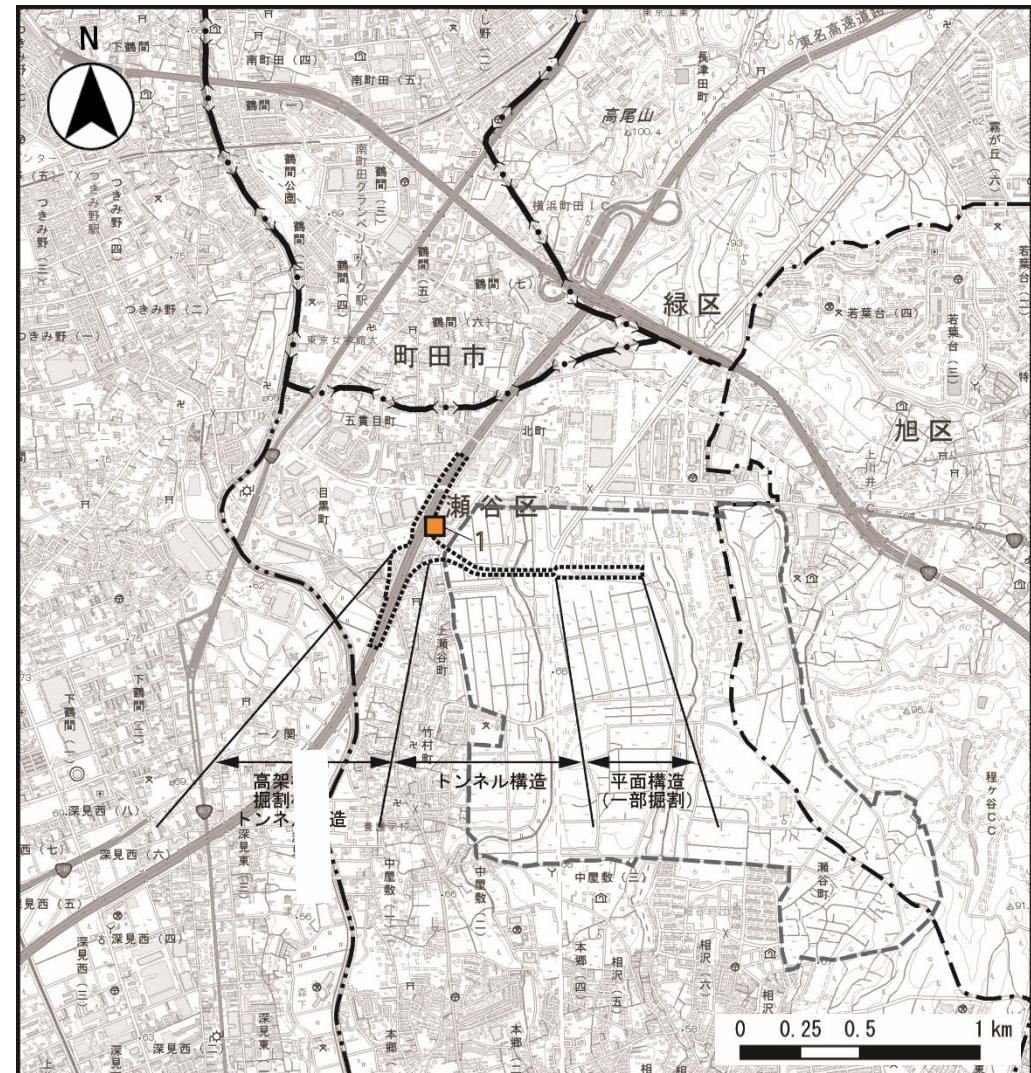
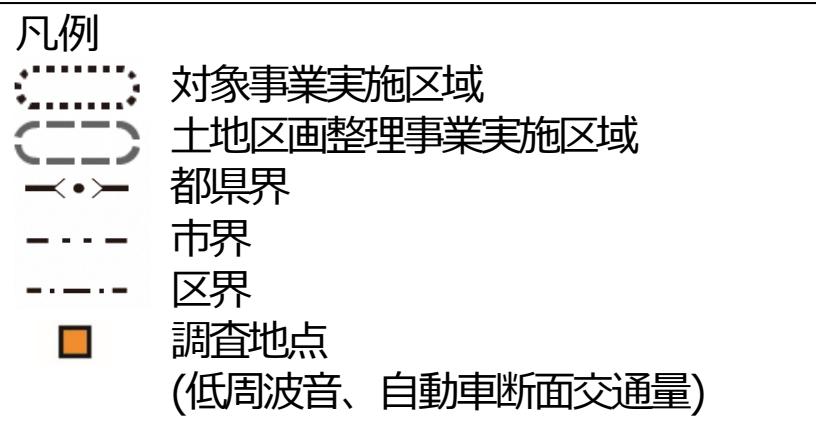
調査項目 <small>注</small>	調査方法	
低周波音の状況	現地	<p>「低周波音の測定方法に関するマニュアル」に定める方法に準拠し、<u>測定</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回
<p>低周波音の主要な発生源の状況 <u>・主要発生源の状況</u> <u>・自動車交通量等の状況</u></p>	資料 現地	<u>既存資料の収集・整理及び現地踏査</u>
	現地	<p>自動車断面交通量を<u>測定</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回

注：主な調査項目を記載

低周波音

方法書p.6-37~6-39

調査地点



■ 予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>自動車の走行に伴う道路交通低周波音</u>	<p>【地域・地点】 自動車の走行ルート沿道として 想定される当該地域の低周波音を代表 すると予想される 1 地点 (地点 1)</p> <p>【時期】 供用開始し、事業活動が定常の状態に なる時期、時間帯</p>	「道路環境影響評価の技 術手法（平成24年度 版）」に示されている <u>予 測手法</u> に準じ、定量的に <u>予測</u>

調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
日影の状況 ・既存の工作物のうち、 <u>対象事業による建設予定の工作物との複合影響が生じると想定される工作物からの日影の状況</u>	資料 現地	既存資料による情報の収集・整理及び現地踏査により調査
日影に配慮すべき農地の状況	資料 現地	既存資料による情報の収集・整理及び必要に応じ現地踏査により調査
既存の工作物の位置及び規模	資料 現地	既存の工作物の位置及び規模を既存資料の収集・整理及び必要に応じ現地踏査により把握

注：主な調査項目を記載

予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
冬至日の日影の範囲、 冬至日に日影となる 時刻、日影に配慮す べき農地が日影とな る時刻、時間数等の 変化の程度	<p>【地域・地点】 対象となる日影の情報を適切 に把握し得る地域、地点</p> <p>【時期】 対象事業に係る工作物の工事 の完了後</p>	対象事業の工作物の工事完 了後の <u>時刻別日影図</u> 、 <u>等時 間日影図</u> を作成し、定量的 に予測

調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
<u>地下埋設物の状況</u> ・対象事業実施区域と交差する地下埋設物の状況	資料	対象事業実施区域と交差する地下埋設物の状況を、事業計画の整理及び既存資料の収集・整理により把握

注：主な調査項目を記載

予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>工事の実施に伴う地下埋設物への影響</u>	<u>【地域・地点】</u> 対象事業実施区域周辺 <u>【時期】</u> 工事期間全体	<u>対象事業実施区域と交差する地下埋設物の状況と施工計画を重ね合わせ、地下埋設物に係る安全を確保するための措置を整理することで、定性的に予測</u>

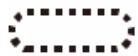
調査手法

調査項目 <small>注</small>	調査方法		
<u>地域交通の状況</u> ・日常生活圏等の状況 ・道路の状況 ・歩行者及び自転車の状況	資料	<u>既存資料の収集・整理及び現地踏査</u> <u>計画交通量は、将来推計資料により把握</u>	
	現地	<u>交通安全対策の状況（ガードレールの設置位置や歩行空間の幅員等）を1回、現地踏査により把握</u>	
	現地	<u>主要交差点部における時間別・車種別・方向別自動車交通量、渋滞の状況及び信号現示を調査</u> - 平日（24時間）×1回 - 休日（24時間）×1回 - 混雑時（24時間）×1回	
	現地	<u>歩道部等の時間別・方向別歩行者・自転車交通量を調査</u> - 平日（24時間）×1回 - 休日（24時間）×1回 - 混雑時（24時間）×1回	

注：主な調査項目を記載

調査地点 (工事中)

凡例



対象事業実施区域



土地区画整理事業実施区域



都県界



市界



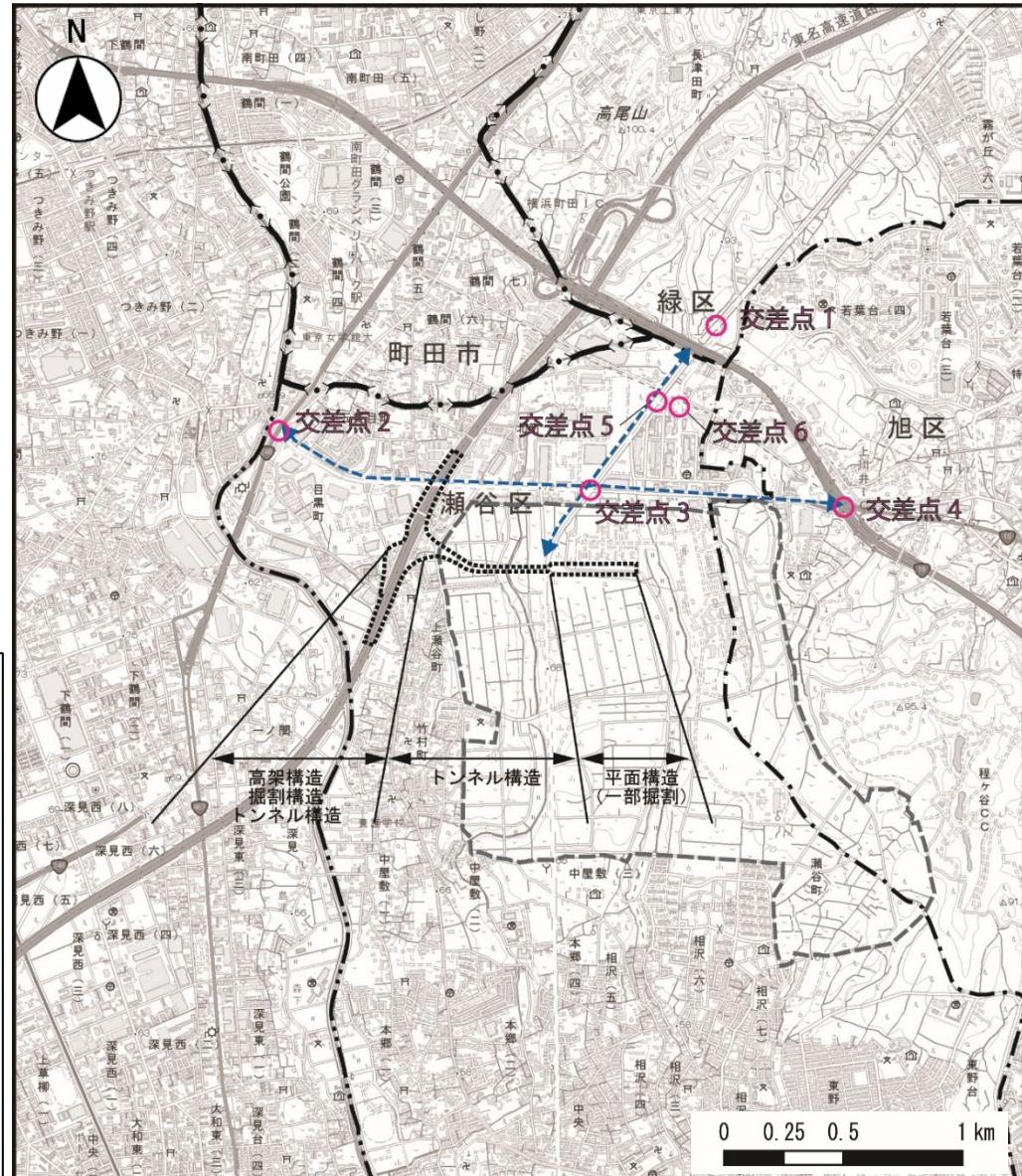
区界



工事用車両の走行ルート



調査地点 (交差点: 自動車交通量、信号現示、渋滞の状況、道路現況、歩行者・自転車交通量)



調査地点 (存在・供用時)

凡例



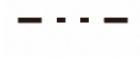
対象事業実施区域



土地区画整理事業実施区域



都県界



市界



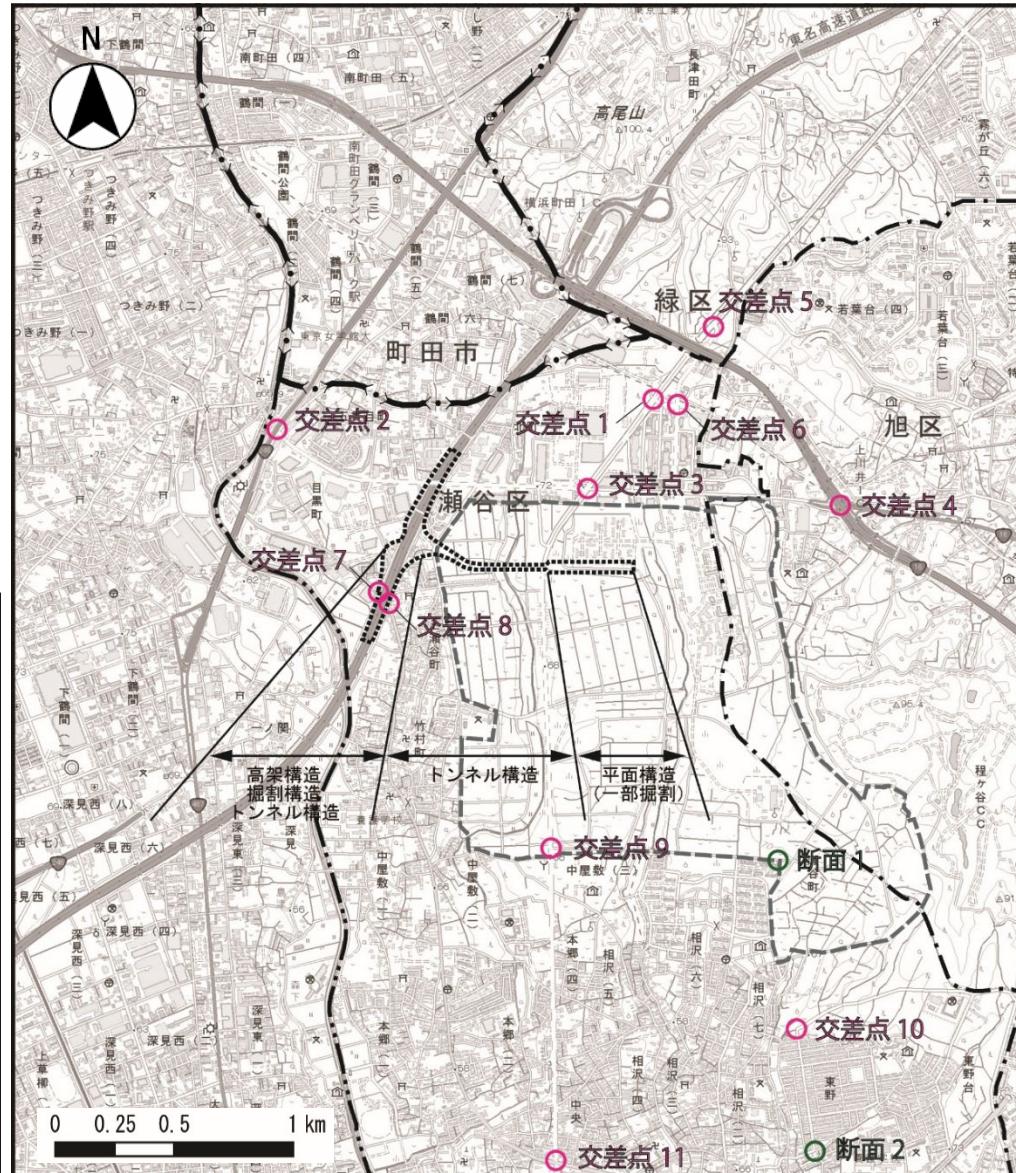
区界



調査地点 (交差点: 自動車交通量、信号現示、渋滞の状況、道路現況、歩行者・自転車交通量)



調査地点
(断面: 歩行者・自転車交通量)



■ 予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>工事用車両の走行に伴う交差点における需要率及び交通容量比（自動車）</u>	<p>【地域・地点】 工事用車両ルートとして想定される主要交差点の6地点（交差点1～6地点）</p> <p>【時期】 工事用車両の走行台数が最大となる時期</p>	<u>交差点需要率の算出等により、交通混雑の程度を定量的に予測</u>
<u>工事中の歩行者等の安全に及ぼす影響の程度</u>	<p>【地域・地点】 工事用車両の走行が予想される主要交差点・ルート</p> <p>【時期】 工事用車両の走行台数が最大となる時期</p>	現状の交通安全施設及び歩行者・自転車の状況の整理と、本事業で実施する安全対策等を整理し、定性的に予測

■ 予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>自動車の走行に伴う交差点における需要率及び交通容量比</u>	<p>【地域・地点】 自動車の走行ルートとして想定される主要交差点の6地点（地点1～6）、及び1断面（地点7）</p> <p>【時期】 供用開始し、事業活動が定常の状態になる時期</p>	<u>交差点需要率の算出等</u> により、 <u>交通混雑の程度を定量的に予測</u>
<u>自動車の走行に伴う歩行者等の安全に及ぼす影響の程度</u>	<p>【地域・地点】 自動車の走行が予想される主要交差点・ルート</p> <p>【時期】 供用開始し、事業活動が定常の状態になる時期</p>	現状の交通安全施設及び歩行者・自転車の状況の整理と、本事業で実施する安全対策等を整理し、 <u>定性的に予測</u>

調査手法

調査項目 <small>注</small>	調査方法	
<u>地域景観の特性</u>	資料 現地	<u>既存資料の収集・整理及び現地踏査</u>
<u>主要な景観資源の状況</u>	資料 現地	<u>既存資料の収集・整理及び現地踏査</u>
<u>近景域の状態</u>	現地	主要な眺望地点からの近景域の景観を、現地調査（写真撮影）により把握 ・各主要な眺望点の特性を踏まえて景観の状況が把握できる適切な時期（夏季、冬季）

注：主な調査項目を記載

調査地点

凡例



対象事業実施区域
土地区画整理事業実施



都県界
市界
区界



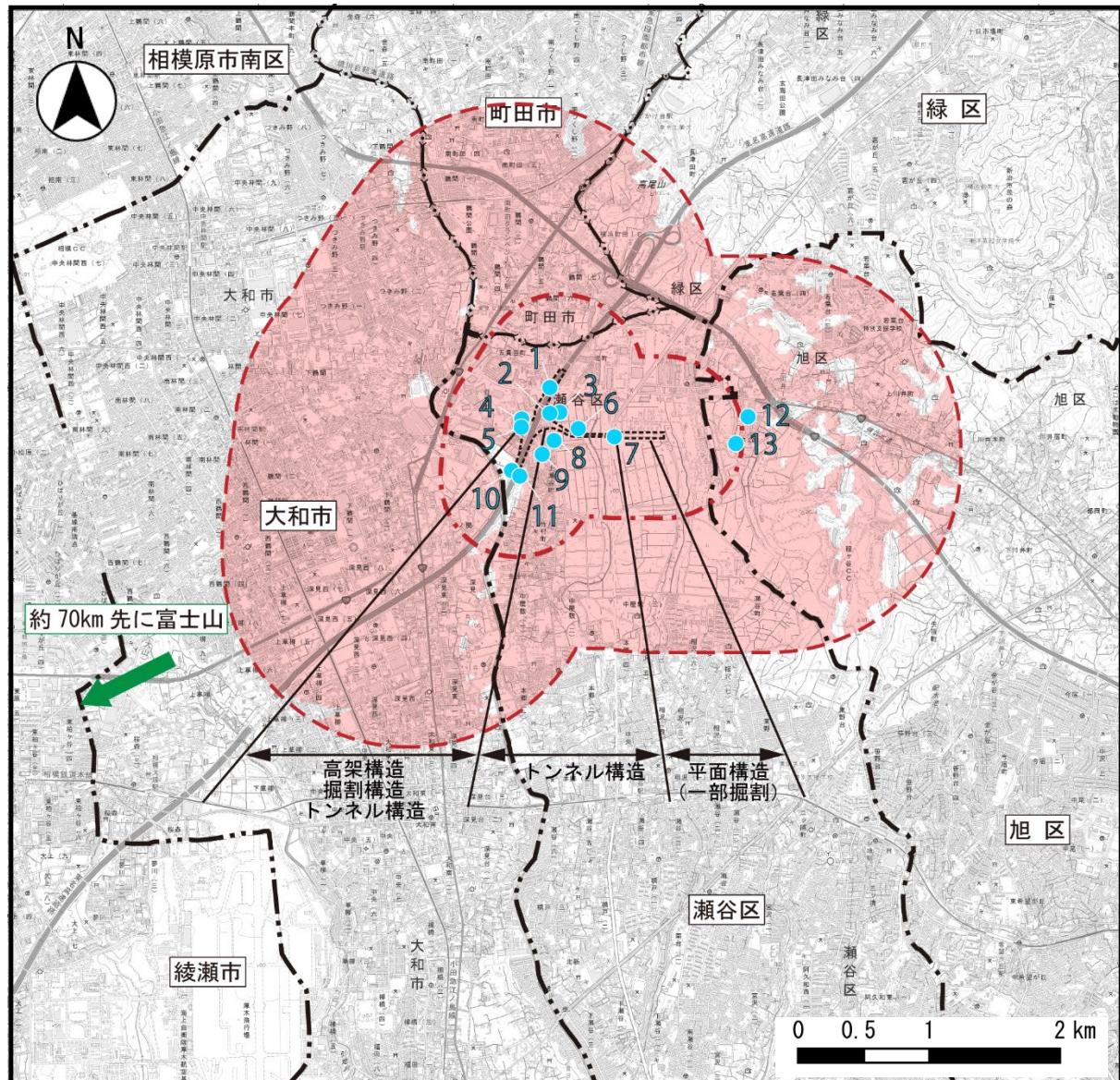
富士山を眺望できる範囲
調査地点



調査範囲
(対象事業実施区域
から概ね3km圏)



近景域
(対象事業実施区域
から概ね500m圏)



■ 予測手法（供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在により 変化する <u>景観の状況</u>	【地域・地点】 現地調査地点 【時期】 道路完成時点	<u>フォトモンタージュ作成</u> により、景観の変化の程度を <u>定性的に予測</u>

調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
<p>触れ合い活動の場の状況</p> <ul style="list-style-type: none">・<u>名称、位置、規模、区域</u>及び分布状況等・<u>活動特性</u>・<u>触れ合い活動の場までの利用経路</u>	資料 現地	<p><u>既存資料の収集・整理及び現地踏査</u></p> <ul style="list-style-type: none">・桜の見どころスポット： 桜の花見時期（3月下旬～4月上旬）、ハイキングコースや散歩道の秋のイベント開催時（10月～11月）

注：主な調査項目を記載

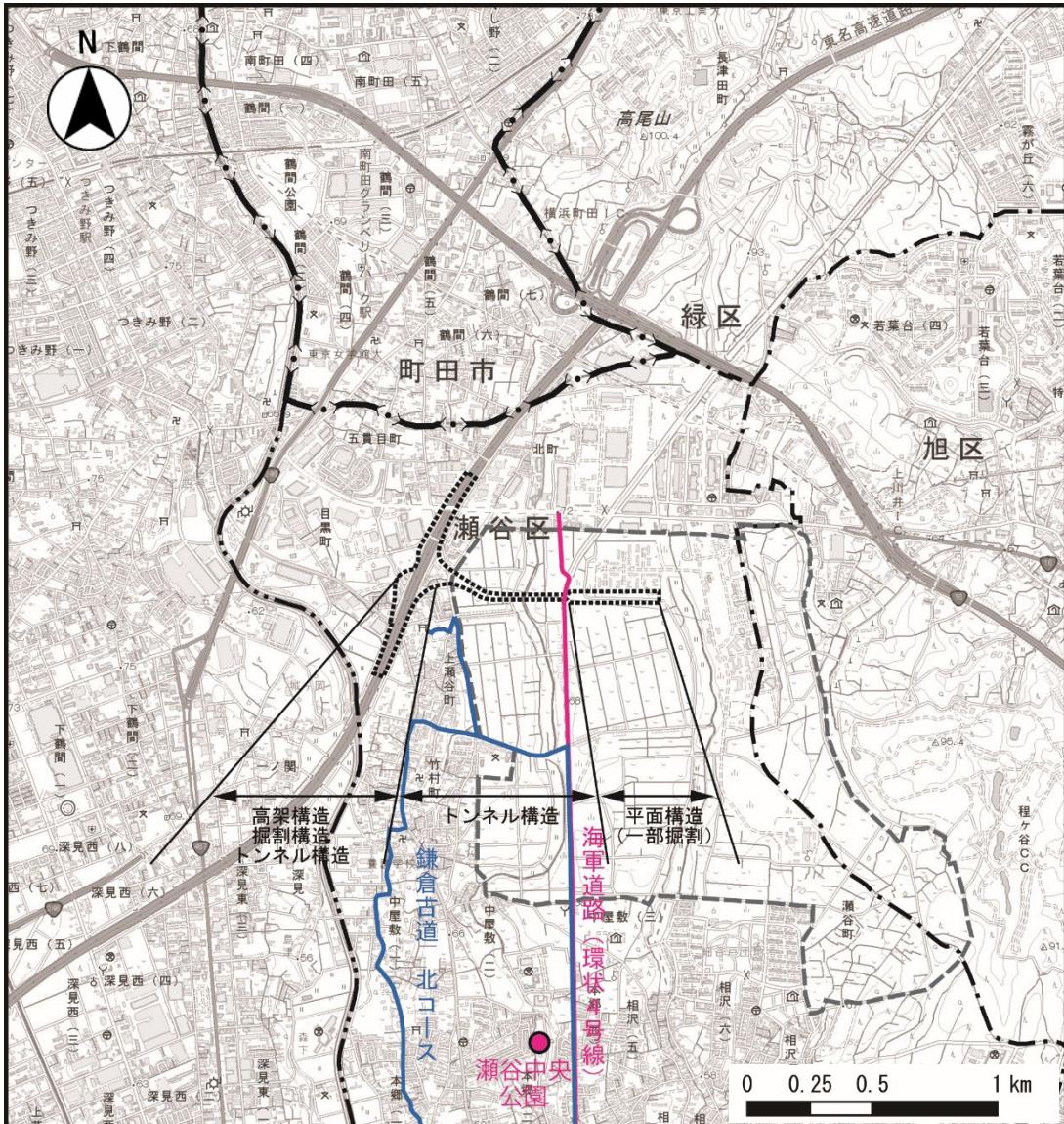
触れ合い活動の場

方法書p.6-50~6-51

調査地域

凡例

- 対象事業実施区域
- 土地区画整理事業実施区域
- 都県界
- 市界
- 区界
- 桜の見どころスポット
(並木型)
- 桜の見どころスポット
(拠点型)
- 鳴谷ふるさと歴史さんぽ道



予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う <u>主要な触れ合い活動の場の変化の程度</u>	【地域・地点】現地調査の範囲 【時期】工事期間全体	調査で把握した主要な触れ合い活動の場の状況と施工計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在、自動車の走行に伴う <u>主要な触れ合い活動の場の変化の程度</u>	【地域・地点】現地調査の範囲 【時期】供用開始し、事業活動が定常の状態になる時期	調査で把握した主要な触れ合い活動の場の状況と事業計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
文化財等の状況 • <u>位置又は範囲</u> • <u>指定区分及びその概要</u>	資料 現地	<u>既存資料の収集・整理及び現地踏査</u>

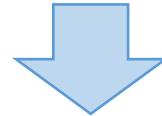
注：主な調査項目を記載

予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・ 時期	予測方法
<u>工事の実施に伴う周知の埋蔵文化財包蔵地の改変の程度</u>	<u>【地域・地点】</u> 対象事業実施区域に隣接する範囲 <u>【時期】</u> 工事期間全体	<u>周知の埋蔵文化財包蔵地の位置と施工計画を重ね合わせ、改変の程度を定性的に予測</u>

環境の保全等に関して、

- ・横浜市が定めた計画及び指針等の中で設定している目標
 - ・法令等で定められている基準
 - ・環境への影響を最小限にとどめる水準
- 等



「環境保全目標」を設定

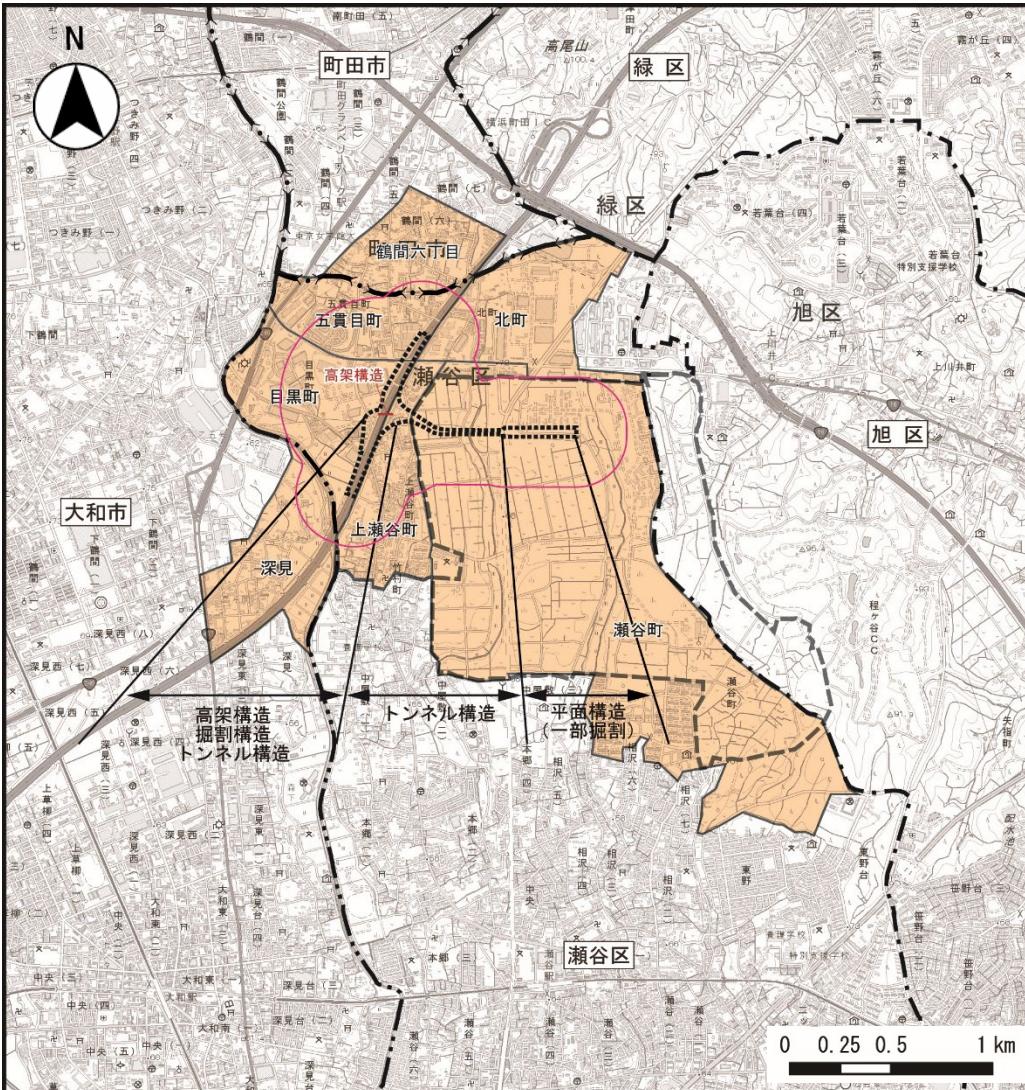
「環境保全目標」と予測結果との対比により、評価

※結果等については、今後実施する準備書にて、お示しいたします。

方法書対象地域

方法書対象地域

方法書p.7-1～7-2



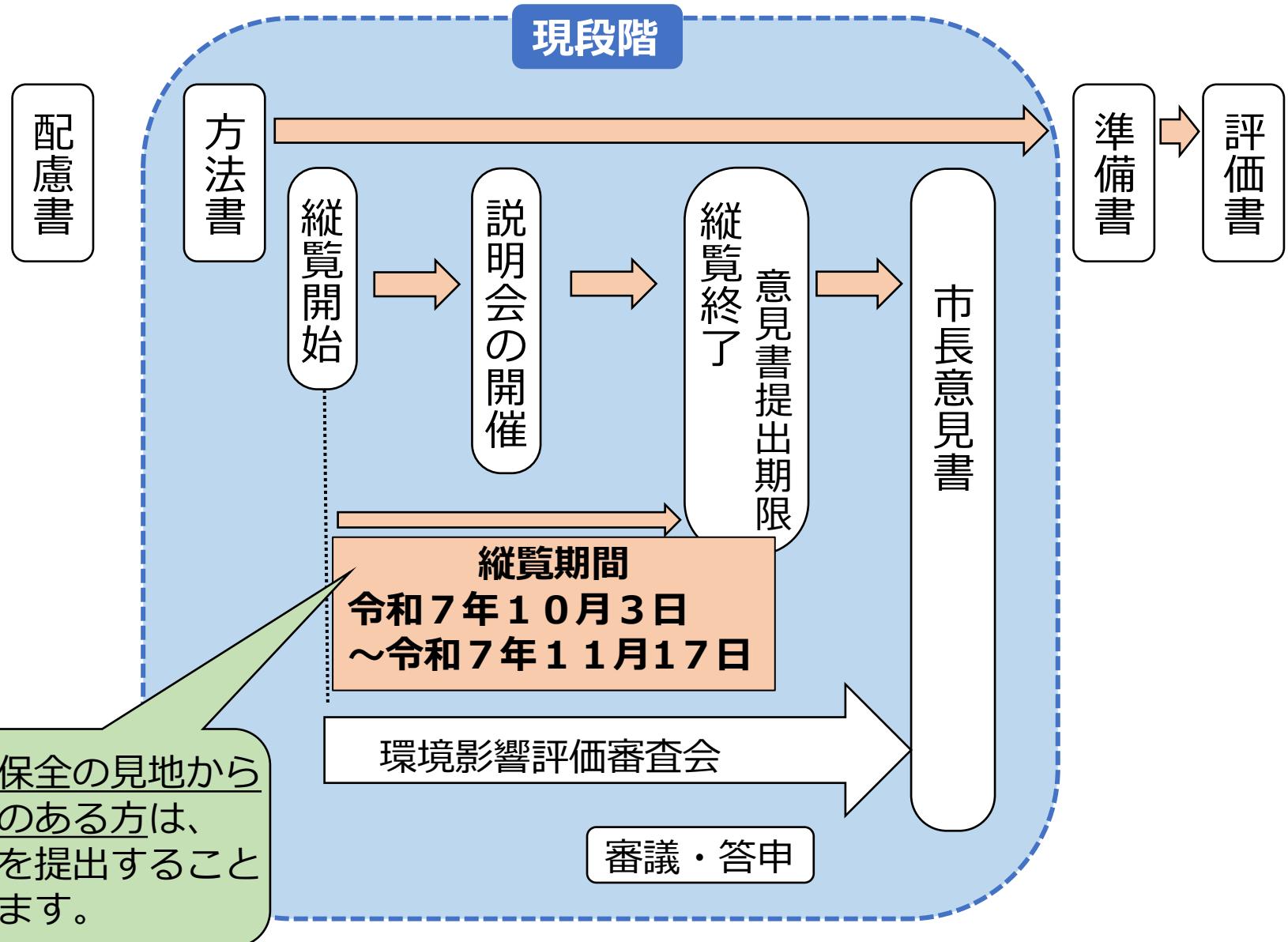
区名	町丁名	周知地域
瀬谷区	瀬谷町	全域
	上瀬谷町	
	北町	
	五貫目町	
	目黒町	
大和市	深見	一部地域
町田市	鶴間六丁目	全域

凡例

- 対象事業実施区域
- 土地区画整理事業実施
- 都県界
- 市界
- 区界
- 本事業影響範囲
- 方法書対象地域

3　縦覧及び意見書の提出について

方法書の縦覧、閲覧および意見書の提出について



方法書の縦覧、閲覧について

縦覧

期間

令和7年10月3日（金）から

令和7年11月17日（月）まで（土・日・祝日を除く）

場所

①横浜市 みどり環境局環境影響評価課

②横浜市瀬谷区役所区政推進課広報相談係

③大和市役所 環境共生部環境・公害対策課

④町田市役所 環境資源部環境共生課,総務部法務課,南市民センター

時間

①②午前8時45分～午後5時（①は午後5時15分まで）

③④午前8時30分～午後5時

方法書の縦覧、閲覧について

図書館における閲覧

期間

令和7年10月3日（金）から

場所

- ①中央図書館（横浜市西区老松町1）
- ②瀬谷図書館（横浜市瀬谷区本郷3-22-1）

市ホームページでの公開

横浜市 環境アセスメント 新たなIC



意見書の提出について

提出期限

令和7年11月17日（月）まで
(窓口での受付は、土・日・祝日を除く)

提出方法

①または②の方法で提出してください。

①意見書用紙にご記入の上、以下の提出先へ持参または郵送（当日消印有効）

- ・横浜市みどり環境局環境影響評価課

※意見書用紙は、縦覧窓口で配布しています。
(町田市役所は環境共生課のみ)

②横浜市ホームページから電子申請で提出

お問合せ先

インターチェンジ整備事業に関すること

横浜市 脱炭素・GREEN×EXPO推進局
上瀬谷交通整備課

TEL：045-671-4607

市ホームページでの公開

横浜市 新たなインターチェンジ



ご清聴ありがとうございました。